【行動文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
7131001	心理学	特殊講義	2	前期	集中	溝上　陽子		行動文化学1
7131005	心理学	特殊講義	2	前期	水4	阿部　修士		行動文化学2
M341001	心理学	特殊講義	2	後期	水3	森口　佑介		行動文化学3
M341002	心理学	特殊講義	2	前期	水3	蘆田　宏		行動文化学4
M341003	心理学	特殊講義	2	後期	火4	齋木　潤		行動文化学5
M341004	心理学	特殊講義	2	前期	月2	水原,熊田,西田,中島,佐藤,三好		行動文化学6
M341005	心理学	特殊講義	2	前期	木1	齊藤,楠見,田口,野村,髙橋		行動文化学7
M341006	心理学	特殊講義	2	前期	水2	黒島　妃香		行動文化学8
M342001	心理学	演習	4	通年	火3	蘆田,阿部,黒島,森口,Wilson,藤本		行動文化学9
7231001	言語学	特殊講義	2	前期	月2	大竹　昌巳		行動文化学10
7231016	言語学	特殊講義	2	後期	月2	大竹　昌巳		行動文化学11
7231002	言語学	特殊講義	2	後期	木5	浅尾　仁彦		行動文化学12
7231003	言語学	特殊講義	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		行動文化学13
7231017	言語学	特殊講義	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		行動文化学14
7231004	言語学	特殊講義	2	前期	金3	定延　利之		行動文化学15
7231008	言語学	特殊講義	2	後期	金3	定延　利之		行動文化学16
7231020	言語学	特殊講義	2	前期	金1	野原　将揮		行動文化学17
7231005	言語学	特殊講義	2	後期	金1	野原　将揮		行動文化学18
7231006	言語学	特殊講義	2	前期	水4	谷口　一美		行動文化学19
7231007	言語学	特殊講義	2	後期	水5	谷口　一美		行動文化学20
7231009	言語学	特殊講義	2	前期	水3	山本　武史		行動文化学21
7231010	言語学	特殊講義	2	前期	集中	宮本　陽一		行動文化学22
7231011	言語学	特殊講義	2	前期	集中	井上　優		行動文化学23
7231012	言語学	特殊講義	2	前期	集中	肥後　時尚		行動文化学24
7231013	言語学	特殊講義	2	前期	月2	Tao Pan		行動文化学25
7231014	言語学	特殊講義	2	後期	月2	Tao Pan		行動文化学26
7231015	言語学	特殊講義	2	後期	水4	安岡　孝一		行動文化学27
7231018	言語学	特殊講義	2	前期	水5	松本　亮		行動文化学28
7231019	言語学	特殊講義	2	後期	火4	荻原　裕敏		行動文化学29
7231021	言語学	特殊講義	2	前期	水4	米田　信子		行動文化学30
M351001	言語学	特殊講義	2	後期	月2	横森　大輔		行動文化学31
7241001	言語学	演習	2	後期	木3	笹間　史子		行動文化学32
7241002	言語学	演習	2	前期	木2	パリハワダナ　ルチラ	日本語教育セミナー	行動文化学33
7241003	言語学	演習	2	前期	月4	千田,CATT,定延,大竹		行動文化学34
7241004	言語学	演習	2	後期	月4	千田,CATT,定延,大竹		行動文化学35
7241005	言語学	演習	2	後期	月4	守田　貴弘		行動文化学36
7241011	言語学	演習	2	前期	金3	堀口　大樹		行動文化学37
7241010	言語学	演習	2	後期	金3	堀口　大樹		行動文化学38
7241013	言語学	演習	2	前期	火4	堀口　大樹		行動文化学39
7241012	言語学	演習	2	後期	火4	堀口　大樹		行動文化学40
M352001	言語学	演習	4	通年	金4,金5	千田,CATT,定延,大竹		行動文化学41
9620001	言語学	語学	4	通年	金1	森　若葉	大学院共通科目	行動文化学42
9624001	言語学	語学	2	前期	火3	井戸根　綾子	大学院共通科目	行動文化学43
9625001	言語学	語学	2	後期	火3	井戸根　綾子	大学院共通科目	行動文化学44
7331001	社会学	特殊講義	2	前期	金4	松谷　実のり		行動文化学45
7331002	社会学	特殊講義	2	前期	集中	筒井　淳也		行動文化学46
7331003	社会学	特殊講義	2	前期	火2	Stephane Heim		行動文化学47
7331004	社会学	特殊講義	2	後期	水5	筒井　淳也		行動文化学48
7331005	社会学	特殊講義	2	前期	月5	岸　政彦		行動文化学49
7331006	社会学	特殊講義	2	前期	集中	有田　伸		行動文化学50
7331007	社会学	特殊講義	2	後期	金2	安里　和晃		行動文化学51
7331008	社会学	特殊講義	2	前期	木3	溝口　佑爾		行動文化学52
7331009	社会学	特殊講義	2	前期	火3	堀　あきこ		行動文化学53
7331012	社会学	特殊講義	2	前期	水5	藤間　公太		行動文化学54
7331013	社会学	特殊講義	2	後期	水5	岡邊　健		行動文化学55
7331014	社会学	特殊講義	2	前期	月3	中村　健二,塚田　義典,梅原　喜政		行動文化学56
7331015	社会学	特殊講義	2	前期	月5	吉田　純		行動文化学57
7331017	社会学	特殊講義	2	後期	月3	伊藤　遊		行動文化学58
7331018	社会学	特殊講義	2	後期	木2	溝口　佑爾		行動文化学59
7331024	社会学	特殊講義	2	前期	木2	柴田　悠		行動文化学60
7331026	社会学	特殊講義	2	前期	金2	安里　和晃		行動文化学61
7331032	社会学	特殊講義	2	後期	水2	直野　章子		行動文化学62
7334001	社会学	特殊講義	3	前期	月4	Stephane Heim		行動文化学63
M361002	社会学	特殊講義	2	通年	集中	安里　和晃,Stephane Heim		行動文化学64
M361003	社会学	特殊講義	2	前期	木2	丸山　里美		行動文化学65
M361004	社会学	特殊講義	2	通年	水4	太郎丸　博		行動文化学66
M361005	社会学	特殊講義	2	前期	水3	秋津　元輝		行動文化学67
M361006	社会学	特殊講義	2	後期	水3	秋津　元輝		行動文化学68
M361007	社会学	特殊講義	2	後期	月2	竹内　里欧,藤村　達也		行動文化学69

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M361008	社会学	特殊講義	2	前期	金1	速水　洋子		行動文化学70
M361009	社会学	特殊講義	2	前期	火4	吉田　純		行動文化学71
M361010	社会学	特殊講義	2	後期	木2	柴田　悠		行動文化学72
M362001	社会学	演習	4	通年	水5	Stephane Heim		行動文化学73
M362002	社会学	演習	4	通年	金5	丸山　里美		行動文化学74
M362003	社会学	演習	4	通年	金4	太郎丸　博		行動文化学75
M362004	社会学	演習	4	通年	木2	安里　和晃		行動文化学76
M362005	社会学	演習	4	通年	火5	田中　紀行		行動文化学77
M362006	社会学	演習	4	通年	月4	岸　政彦		行動文化学78
7431001	地理学	特殊講義	2	前期	月2	埴淵　知哉		行動文化学79
7431002	地理学	特殊講義	2	後期	月2	埴淵　知哉		行動文化学80
7431003	地理学	特殊講義	2	前期	金2	米家　泰作		行動文化学81
7431004	地理学	特殊講義	2	後期	金2	米家　泰作		行動文化学82
7431006	地理学	特殊講義	2	前期	火2	小島　泰雄		行動文化学83
7431008	地理学	特殊講義	2	前期	集中	松四　雄騎	教職科目「自然地理学」	行動文化学84
7431009	地理学	特殊講義	2	前期	集中	中島　弘二		行動文化学85
7431010	地理学	特殊講義	2	後期	月5	花岡　和聖		行動文化学86
7431011	地理学	特殊講義	2	後期	火1	土屋　純		行動文化学87
7431012	地理学	特殊講義	2	前期	木2	池谷　和信		行動文化学88
7431013	地理学	特殊講義	2	後期	水1	山本　理佳		行動文化学89
7431014	地理学	特殊講義	2	前期	集中	松多　信尚		行動文化学90
7431015	地理学	特殊講義	2	前期	金1	小坂　康之		行動文化学91
7431016	地理学	特殊講義	2	前期	火5	大山　修一		行動文化学92
7431017	地理学	特殊講義	2	前期	水1	杉江　あい		行動文化学93
7431018	地理学	特殊講義	2	後期	火5	杉江　あい		行動文化学94
M372001	地理学	演習	4	通年	水5	米家　泰作,埴淵　知哉,杉江　あい		行動文化学95
M373001	地理学	演習	2	後期	火2	小島　泰雄	地理学演習（中国農村）	行動文化学96

行動文化学1

科目ナンバリング	G-LET28 67131 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	千葉大学工学研究院　教授 溝上　陽子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	色の知覚と認知										

[授業の概要・目的]

私たちにとって色は身近なものだが、色とは何か、私たちがどのように色を知覚しているのか、という問いに答えることは難しい。なぜなら、色は私たちの脳内に作りだされる主観的なものだからである。一方で、色を系統的・定量的に表す数々の手法が存在している。本講義では、私たちが色を見るための色覚メカニズムと、色の知覚や認知に影響を与える様々な要素を、物理的、心理的、生理学的等、様々な観点から理解すること、また、色を利用するために必要な色の表し方を習得することを目的とする。

[到達目標]

色の知覚と認知に関わる視覚メカニズムを理解する。また、様々な色の表し方を習得する。

[授業計画と内容]

基本的に以下の通り講義を進める。ただし講義の進みぐあいにより変更されることがある。
第1回　イントロダクション
第2回　放射と光，そして色
第3回　色覚のメカニズム
第4回　人間の視覚系の構造と機能
第5回　色覚の多様性
第6回　自然界の色と動物の色覚
第7回　色の表し方：カラーオーダーシステム
第8回　色の表し方：CIE表色系
第9回　混色と色再現
第10回　観察条件が色の知覚に与える影響
第11回　色知覚の環境適応性
第12回　認識，記憶，文化等が色の認知に与える影響
第13回　色彩と心理
第14回　色彩の応用
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート（50点）、最終レポート（50点）により評価する。

[教科書]

使用しない

心理学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

心理学(特殊講義) (2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学2

科目ナンバリング	G-LET28 67131 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人と社会の未来研究院 准教授　阿部　修士				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	心理学(特殊講義)										

[授業の概要・目的]

本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論－具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法－を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・意思決定など、主に社会神経科学（Social Neuroscience）における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。

また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。

[到達目標]

認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。
認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。

[授業計画と内容]

初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。

1. オリエンテーション
2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究
3. 認知神経科学の研究手法①：fMRI
4. 認知神経科学の研究手法②：その他の脳機能の測定手法
5. 前頭葉機能①：下位領域の区分
6. 前頭葉機能②：機能の評価とこれまでの知見
7. 記憶の神経機構
8. 未来思考/プロスペクションの神経基盤
9. 情動の神経基盤
10. 報酬と意思決定
11. 選好判断
12. 道徳的判断
13. 文化神経科学
14. 発達社会神経科学
15. 講義全体のまとめ及びフィードバック

なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks（http://www.ted.com/talks）を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な

心理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

心理学(特殊講義)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

[評価方法]
平常点評価（50%）及びレポート（50%）。
４回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

必要に応じて資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk（http://www.ted.com/talks）についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学3

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　森口　佑介				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	発達認知神経科学論										

[授業の概要・目的]

本授業では，認知発達とその生物学的基盤を，発達心理学，認知神経科学，生理心理学などの知見を参照しながら理解することを目的とする。内容としては、実行機能、意識、メタ認知、注意、記憶、視覚イメージなどの認知機能の発達とその脳内基盤について、講義と受講者の発表を織り交ぜながら検討する。

[到達目標]

・認知発達とその生物学的基盤を理解する
・様々な認知発達の関連性を理解する

[授業計画と内容]

１ イントロダクション
２　～　４　認知発達理論の復習
５　～１４認知発達とその脳内基盤についての最新知見
１５　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】発表を割り当てるので、その発表（80点）および平常点(20点)
【評価基準】到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

【予習】参考書程度の知識は授業前に身につけておく
【復習】授業の課題論文について、復習する
（わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください）

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　蘆田　宏				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	視覚科学特論										

[授業の概要・目的]

視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する．視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに，知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする．前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い，後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める．

[到達目標]

視覚科学に関して，最新の研究について理解し，自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。

[授業計画と内容]

前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。
1 イントロダクション
2 視覚刺激と信号
3 受容野とたたみこみ
4 初期視覚処理のモデル
5 視覚実験刺激の基礎
6 MRIの基礎
7 fMRIと分析手法
後半、8-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。
15 フィードバック

[履修要件]

学部で実験心理学または周辺領域（神経科学など）の基礎を学んでいること
議論に参加できる日本語能力を持つこと

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（発表と議論への参加）

心理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

前半は授業中に指示する。
後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは固定しない．まずメール等で相談する．

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学5

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　齋木　潤				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	視覚認識論										

[授業の概要・目的]

視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。

[到達目標]

正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。

[授業計画と内容]

以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。

１－２回．心理物理学的測定法
３－４回．信号検出理論の基礎
５－６回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索
７－８回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶
９－１０回。信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識
１１－１２回．反応時間解析
１３回．脳波測定とその解析
１４回．授業内試験（問題演習）
１５回．フィードバック

[履修要件]

心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点 ２５％ 試験 ７５％
試験は最終回の授業時に行う。持込可にする予定。
平常点は、PandA を通じて毎回授業後に授業に関するコメントを提出することによって評価する

心理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は用いない。

[参考書等]

（参考書）

なし。

[授業外学修（予習・復習）等]

自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	情報学研究科 准教授 水原 啓暁 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 非常勤講師 佐藤 弥 情報学研究科 助教 三好 清文				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	認知科学基礎論										

[授業の概要・目的]

視覚認知、注意、記憶、意識、実行機能、感情などを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳の関係を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。

This lecture elaborates on the issue of brain mechanisms such as visual recognition, attention, memory, consciousness, executive function, and emotion. In addition, technical issues of experimental psychology and functional brain imaging are introduced. The applied aspects of these issues are also explained.

[到達目標]

人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかに関しても理解を広げることができる。
Basic knowledge and techniques for understanding of human cognitive system can be learned.

[授業計画と内容]

1. イントロダクション
2. 脳の基礎（水原）
3. 視覚情報処理の基礎（西田）
4. 基本的な視覚属性の知覚（西田）
5. 複雑な視覚属性の知覚（西田）
6. 知覚的意思決定（三好）
7. 注意（中島）
8. アクション（中島）
9. 記憶（水原）
10. 意識（三好）
11. 実行機能（熊田）
12. 感情（佐藤）
13. 社会的認知（佐藤）
14. 認知の個人差，加齢変化，障害（熊田）
15. フィードバック

心理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

心理学(特殊講義)(2)

---
1. Introduction
2. Basics of the brain
3. Basic of visual information processing
4. Visual perception for simple attributes
5. Visual perception for complex attributes
6. Perceptual decision
7. Attention
8. Action
9. Memory
10. Consciousness
11. Executive function
12. Emotion
13. Social cognition
14. Individual difference, aging and deficits of cognition
15. Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回，講義中に行うまたは，講義中に出題し，期限内に提出を求める小レポートにより評価（講義の最後に実施するとは限らないので要注意）
これらは通常のテストと同等に扱う。
フィードバックを除く14回分を10点満点で採点し，合計140点満点を合計100点に換算する（小数点以下切り上げ）。したがって，６回以上，小テストを受けていない場合には，残りが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中の指示により、予習復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 准教授 田口 真奈 教育学研究科 准教授 野村 理朗 国際高等教育院 准教授 高橋 雄介				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	認知デザイン特論										

[授業の概要・目的]

デザインという人間の営みを、脳・心・行動の３つの水準で捉える認知心理学や認知科学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。さらに、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。最後に、行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しうるのかについての関連性を、文芸や教育などの事例を取り上げて考察する。

[到達目標]

認知心理学や認知科学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものがどうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。

[授業計画と内容]

第１回（齊藤）イントロダクション:認知機能の制約とデザイン
第２回（齊藤）記憶の制約
第３回（齊藤）認知トレーニングのデザイン
第４回（野村）脳のデザイン
第５回（野村）文化と遺伝子のデザイン
第６回（野村）感情と心身のデザイン
第７回（田口）教えることのデザイン
第８回（田口）学習環境のデザイン
第９回（楠見）思考と意思決定の制約とデザイン
第10回（楠見）言語芸術のデザイン
第11回（高橋）パーソナリティ発達のデザイン
第12回（高橋）遺伝と環境の影響による個人差のデザイン1
第13回（高橋）遺伝と環境の影響による個人差のデザイン2
第14回（楠見）メディア環境のデザイン
第15回　フィードバック　＊フィードバック方法は別途連絡する。

* 授業の順序は変更することがある。その場合は、事前に通知をする。

心理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

心理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に課す課題によって評価する（各教員20点、計100点）。
課題は到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗（編）『教育認知心理学の展望』（ナカニシヤ出版）（その他は授業中に紹介する）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考図書・論文、配付資料を活用して各回の要点を復習する。

（その他（オフィスアワー等））

授業責任者連絡先　E-mailアドレス saito.satoru.2z@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学8

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　黒島　妃香				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	比較認知特論										

[授業の概要・目的]

この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。

[到達目標]

比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回～第14回　講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本３回ないし4回で１トピックの割合で進める。
第15回　心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の討論内容（30%）及び、発表担当回での発表と討論（40%）、最終回での討論（30%）により評価する。

[教科書]

特に用いない。必要な資料は準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET28 7M342 SJ46										
授業科目名 <英訳>	心理学(演習) Psychology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　蘆田　宏 人と社会の未来研究院　准教授　阿部　修士 文学研究科　教授　黒島　妃香 文学研究科　准教授　森口　佑介 文学研究科　講師　Duncan Wilson 文学研究科　助教　藤本　花音				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	火3	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
題目	現代心理学の諸問題										

[授業の概要・目的]

受講者のオリジナル研究に基づく研究発表と、それを題材とした討論をおこなう。
これにより、研究発表技術の向上、討論力の向上を図るとともに、多様な視点からの議論を通して、研究の洗練と展望を支援する。

[到達目標]

自らがオリジナルの研究を発表・討論することで、発表技術および討論の能力を身に着け、研究者としての基本的能力を養う。

[授業計画と内容]

　各人の研究テーマとその進捗状況について発表し、発表内容及びそれに関連した内容について、博士後期課程の大学院生も含め、全員で討論する。前期後期、１回ずつの研究発表を課す。希望者は英語による発表を認める。後期には博士後期の学生に英語による発表を課す。
　発表者はレジュメを配布する。コンピュータを使用したプレゼンテーションが推奨される。出席者には積極的な討論への参加が求められる。具体的には以下の通りに行う。

1週：オリエンテーション、授業の進め方に関する説明
2週～29週：学生の発表、発表に関する全体討論
30週：総括

[履修要件]

原則として、心理学専修所属の大学院生であること

[成績評価の方法・観点]

平常点による

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
必要に応じて指示する

心理学(演習)(2)へ続く↓↓↓

心理学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表の事前準備をしっかり行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　大竹　昌巳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	モンゴル語族史概論										

[授業の概要・目的]

モンゴル民族は13～14世紀にユーラシアの東西にまたがる世界帝国を築き上げたことで名高く、日本とのつながりで言えば、元寇がよく知られている。近年であれば、大相撲の力士を輩出する民族というイメージが真っ先に思い浮かぶ人も多いだろう。ところが、同じ東アジアにあって、しかも時には日本語とともに「アルタイ系言語」という同一の言語グループにくくられるにもかかわらず、彼らの言語であるモンゴル語については一般にほとんど知られておらず、言語学界でも同じ「アルタイ系言語」のトルコ語と比べると認知度には相当の差が感じられる。モンゴル語の敷居を上げている要因の一つには、正書法にラテン文字を採用していないことがあるように思われる。
本講義では、現在でも使用されるモンゴル文語を含め、モンゴル語を記録した種々の文字文献について概観するとともに、モンゴル語を含むモンゴル系諸言語を通時的観点から概観する。文献としては13～14世紀の中期モンゴル語文献を主に扱い、言語的側面としては主に音韻の変化に注目する。また、言語史の方法としては文献を用いた方法以外にも、現代諸語・諸方言のデータを用いた比較方法による研究があり、文献による言語研究と相互補完的な役割を果たす。講義ではそうしたデータも用いて、言語史の方法と課題について検討する。

[到達目標]

・モンゴル語史研究に必要な基本的知識を習得する。
・各種文字文献によって何を明らかにすることができ、どのような資料上の限界があるかを理解する。
・言語変化のパターンや条件・要因について、モンゴル諸語における事例から帰納的に理解する。

[授業計画と内容]

以下の予定で講義を進める。ただし、講義の進捗度や受講者の興味に応じて変更の可能性がある。

第1回　イントロダクション
第2回　現代モンゴル諸語概観
第3回　モンゴル文語概観
第4回　中期モンゴル語文献概観(1)：ウイグル字文献
第5回　中期モンゴル語文献概観(2)：パスパ字文献
第6回　中期モンゴル語文献概観(3)：漢字文献
第7回　中期モンゴル語文献概観(4)：アラビア字文献その他
第8回　音韻史概観(1)：子音編
第9回　音韻史概観(2)：母音編
第10回　音韻史概観(3)：音節編
第11回　文法史概観
第12回　現代諸語による音韻史研究(1)
第13回　現代諸語による音韻史研究(2)
第14回　アルタイ語族説について：テュルク諸語・トゥングース諸語との関係
第15回　フィードバック

言語学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート（40点）と期末レポート（60点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
Juha Janhunen (ed.) 『The Mongolic Languages』（Routledge, 2003）
斎藤純男 『中期モンゴル語の文字と音声』（松香堂書店, 2003）
Nicholas Poppe 『Introduction to Mongolian Comparative Studies』（Suomalais-Ugrilainen Seura, 1955）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内では時間に限りがあるので、取り上げる文献について細部まで立ち入って論じることはできない。授業で紹介された文献について、自分なりにあれこれ考えてみる時間を各自設けること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　大竹　昌巳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	契丹語研究序説										

[授業の概要・目的]

10～12世紀のユーラシア東方世界において、マンチュリア・モンゴリア・華北にまたがる大帝国を築いたモンゴル系遊牧民族の契丹人は、新たな文字体系を創出して自らの言語を書き残した。20世紀前半に再発見されて以来、長らく未解読の文字・言語とされてきたこの契丹文字・契丹語は、近年、急速に解読が進んでいる。
本講義では、近年の解読成果をふまえ、契丹文字・契丹語がどのような文字体系・言語体系であるのかを論じる。主な対象は2種類の契丹文字のうちの契丹小字とし、どのような文献があるのか、どのような文字体系なのか、それによって書き表わされる契丹語はモンゴル諸語とどのような関係にあるのか、どのような文法的特徴をもつのかについて概説するとともに、実際に文献を読む機会を設け、具体的な解読事例の紹介も行なう。それらを通じて、契丹語資料を実践的に扱う能力・知識を習得するとともに、契丹語解読の現在の到達点を知り、ひいては文献上の言語を研究する上での方法や課題についての理解を深める。

[到達目標]

・契丹文字契丹語文献の読解に必要な基本的事項を理解し、契丹語資料を扱うための実践的能力を養う。
・契丹文字契丹語の解読が現在どこまで進んでおり、どのような点が未解読であるかを理解する。
・契丹語文献の解読事例から帰納的に文献言語研究の方法や課題を理解する。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション(1)：契丹国（遼朝）の社会と文化
第2回　イントロダクション(2)：契丹大字と契丹小字
第3回　契丹小字文献概観
第4回　契丹小字の文字体系
第5回　蒙契比較言語学(1)：子音編
第6回　蒙契比較言語学(2)：母音編
第7回　契漢対訳碑文『郎君行記』を読む
第8回　契丹語文法摘要(1)：名詞の性と数
第9回　契丹語文法摘要(2)：名詞の格
第10回　契丹語文法摘要(3)：形容詞
第11回　契丹語文法摘要(4)：動詞
第12回　契丹語解読事例(1)：語彙的意味の解読
第13回　契丹語解読事例(2)：文法的機能の解読
第14回　契丹語文献を読む
第15回　フィードバック

言語学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート（40点）と期末レポート（60点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内では時間に限りがあるので、取り上げる文献について細部まで立ち入って論じることはできない。授業で紹介された文献について、自分なりにあれこれ考えてみる時間を各自設けること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学12

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 淺尾　仁彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	コーパスと言語研究										

[授業の概要・目的]

言語研究において近年重要な役割を果たすようになっているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。

[到達目標]

言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。

[授業計画と内容]

第1回 イントロダクション
第2回 コーパスの基本概念とテキストデータ
第3回 検索と正規表現
第4回 頻度と統計 (1) 基本
第5回 頻度と統計 (2) 進んだ話題
第6回 論文紹介 (1)
第7回 論文紹介 (2)
第8回 Pythonによるテキスト処理 (1) 基本
第9回 Pythonによるテキスト処理 (2) 検索
第10回 Pythonによるテキスト処理 (3) 集計
第11回 Pythonによるテキスト処理 (4) 進んだ話題
第12回 研究発表 (1)
第13回 研究発表 (2)
第14回 研究発表 (3)
第15回 まとめ
授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（30%）、宿題（30%）、期末レポート（40%）

[教科書]

使用しない

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）
石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』（ひつじ書房, 2021）
淺尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』（開拓社, 2013）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を2、3回程度課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

（その他（オフィスアワー等））

・パソコンを授業に持ち込めることが望ましい（OSなどは問わない）ですが、難しい場合は相談に応じます。
・授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学13

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　CATT, Adam Alvah				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)										

[授業の概要・目的]

紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。

[到達目標]

・ヴェーダ語を読む力を身につける。
・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。
・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。
・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。

[授業計画と内容]

この授業では、１週間に１stanza～２stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。
1. Hymn 1（７週間）
2. Hymn 2（７週間）
3. フィードバックなど（１週間）

[履修要件]

サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

予習の出来具合により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学14

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　CATT, Adam Alvah				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)										

[授業の概要・目的]

紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。

[到達目標]

・ヴェーダ語を読む力を身につける。
・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。
・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。
・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。

[授業計画と内容]

この授業では、１週間に１stanza～２stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。
1. Hymn 1（７週間）
2. Hymn 2（７週間）
3. フィードバックなど（１週間）

[履修要件]

サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

予習の出来具合により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　定延　利之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本語話しことばの文法Ⅰ										

[授業の概要・目的]

この授業では，日本語の話しことばの規則性の観察を通して，音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には，文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで，現実の発話がどのように説明されるかを検討する。

[到達目標]

以下の能力を身に付けることを達成目標とする。
[1]　話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を，受講者が自身で獲得していけるようになる。
[2]　コミュニケーション研究，音声研究，そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようになる。

[授業計画と内容]

各回の内容は以下のとおりだが，受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。
第１回　コミュニケーションの中の日本語の文法
第２回　いま・ここ１
第３回　いま・ここ２
第４回　いま・ここを超えた世界
第５回　責任者の特権性
第６回　体験者の特権性
第７回　デキゴトの基本類型１
第８回　デキゴトの基本類型２
第９回　ここまでの補足と議論
第10回　きもちの文法１
第11回　きもちの文法２
第12回　知識と体験１
第13回　知識と体験２
第14回　ここまでの補足と議論
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

（参考書）
定延利之（編）『発話の権利』（ひつじ書房，2020年）ISBN:978-4894769830（第５回・第７回の授業内容に最もよく関連する。）
定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』（三省堂，2020年）ISBN:978-4385349121（第８回の授業内容に最もよく関連する。）
定延利之『文節の文法』（大修館書店，2019年）ISBN:9784469213751（第２回・第４回・第５回の授業内容に最もよく関連する。）
定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房，2016年）ISBN:978-4894769472（第７回・第８回の授業内容に最もよく関連する。）

[授業外学修（予習・復習）等]

復習を怠らないでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

質問は随時受け付けますが，メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学16

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　定延　利之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本語話しことばの文法II										

[授業の概要・目的]

この授業では，日本語の話しことばの規則性の観察を通して，音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には，文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで，現実の発話がどのように説明されるかを検討する。

[到達目標]

以下の能力を身に付けることを達成目標とする。
[1]　話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を，受講者が自身で獲得していけるようになる。
[2]　コミュニケーション研究，音声研究，そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようになる。

[授業計画と内容]

各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。

第１回　コミュニケーションの中の日本語の文法
第２回　話しことばと書きことば、場面的なことばと脱場面的なことば
第３回　唯文主義を超えて
第４回　名詞一語発話とその周辺文節発話・節発話
第５回　文節発話・節発話
第６回　自立性の無い接ぎ穂発話１
第７回　自立性の無い接ぎ穂発話２
第８回　オノマトペ発話
第９回　感動詞発話
第10回　非流暢性からみたコミュニケーション１
第11回　非流暢性からみたコミュニケーション２
第12回　ドリフトイントネーション
第13回　語アクセントとイントネーション
第14回　りきみ
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

（参考書）
定延利之（編）『発話の権利』（ひつじ書房，2020年）ISBN:978-4894769830（第５回・第７回の授業内容に最もよく関連する。）
定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』（三省堂，2020年）ISBN:978-4385349121（第８回の授業内容に最もよく関連する。）
定延利之『文節の文法』（大修館書店，2019年）ISBN:9784469213751（第２回・第４回・第５回の授業内容に最もよく関連する。）
定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房，2016年）ISBN:978-4894769472（第７回・第８回の授業内容に最もよく関連する。）

[授業外学修（予習・復習）等]

復習を怠らないでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

質問は随時受け付けますが，メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学17

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　野原　将揮				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について										

[授業の概要・目的]

中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。

[到達目標]

中古音の基本的な概念を理解する
中古音の声母・韻母の用語を覚える
中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる
字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する

[授業計画と内容]

特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。
第1回ー第3回　ガイダンス　音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について
第4回ー第6回　切韻系韻書、反切について
第7回ー第9回　韻図、方言、漢字音について
第10回　中古音の用語チェック
後半は中古音に関連する事項について紹介する。
第11回ー第14回　字書、義書について
第15回　まとめ、フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

議論への積極的な参加（20%）
小テスト（50%）
レポート（30%）

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

（その他（オフィスアワー等））

授業内で案内します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学18

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　野原　将揮				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国の方言について										

[授業の概要・目的]

本講義は中国の諸方言について大まかな枠組み、各方言の特徴を概観することを目的とする。
また歴史的な観点から、中古音および上古音との関係についても紹介する予定である。
（＊22年度に扱えなかった方言をとりあげる）

[到達目標]

中国語の諸方言の枠組みを理解している
各方言の特徴を説明できる
中国語特有の方言調査の手法を身につける

[授業計画と内容]

以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。
第1回ー第3回：ガイダンス　調音音声学、音韻論と中国語音韻学の述語の確認、中国語諸方言の概要、官話（一部）
第４回ー第6回：呉語
第7回ー第9回：びん語
第10回ー12回：その他南方方言①
第13回ー14回：その他南方方言②
第15回 フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への取り組み（50点）とレポート（50点）

[教科書]

使用しない
配布資料を準備する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

（その他（オフィスアワー等））

授業内で案内します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	認知構文論										

[授業の概要・目的]

この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。

[到達目標]

・認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。
・言語事象に対する観察力を養う。

[授業計画と内容]

認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。

第１回：ガイダンス
第２回：認知文法 (論文1前半)
第３回：認知文法 (論文1後半)
第４回：認知文法 (論文2前半)
第５回：認知文法 (論文2後半)
第６回：構文文法（論文1前半）
第７回：構文文法 (論文1後半)
第８回：構文文法（論文2前半）
第９回：構文文法 (論文2後半)
第10回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文1前半)
第11回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文1後半)
第12回：認知文法・構文文法の応用的研究（論文2前半）
第13回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文2後半)
第14回：全体の総活とディスカッション
第15回：フィードバック

[履修要件]

認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況 (20%）、学期末のレポート (80%）から総合的に評価する。

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

言語学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義) (2)

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学20

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	認知意味論研究										

[授業の概要・目的]

この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。

[到達目標]

・認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。
・言語事象に対する観察力を養う。

[授業計画と内容]

授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。

第1回：イントロダクション
第2回：認知言語学の理論的概要
第3回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（導入）
第4回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（考察）
第5回：言語学と心理学の関わり（2)：視線と主観性（導入）
第6回：言語学と心理学の関わり（2)：視線と主観性（考察）
第7回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー （導入）
第8回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー （考察）
第9回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（導入）
第10回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ （考察）
第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入）
第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察）
第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー
第14回：文法構文と意味
第15回：フィードバック

[履修要件]

・言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート (80%)、授業への取り組みの状況（20%) から総合的に評価する。

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本　武史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	英語の音声・音韻										

[授業の概要・目的]

英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。

[到達目標]

英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。

[授業計画と内容]

以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。

1. 授業の概要の説明
2. English phonetics: Consonants
3. English phonetics: Vowels
4. The phonemic principle and English phonemes
5. English syllable structure (1): Phonotactics
6. English syllable structure (2): Syllabification
7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule
8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems
9. Rhythm, reversal, and reduction
10. Engish intonation
11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations
12. Variation in English accents
13. An outline of some accents of English
14. First‐language (L1) acquisition of Engish phonetics and phonology
15. Second‐language (L2) acquisition of English phonetics and phonology

[履修要件]

特になし

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末試験（実施が困難な状況においてはレポート）（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。４回以上（４回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』（Wiley-Blackwell）ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（yamamoto.takeshi.hmt@osaka-u.ac.jp）によること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学大学院言語文化研究科 教授 宮本　陽一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	統語論研究										

[授業の概要・目的]

統語理論のゴールは, 人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この１つの試みとして生成文法理論がある。本講義では, 生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら, 生成文法理論の考え方を学んでいく。

[到達目標]

（１）生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。
（２）疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。
（３）樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。
（４）生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。

[授業計画と内容]

以下の予定で講義を進める。但し, 講義の進み具合により, 多少の変更はあり得る。
第１回：オリエンテーションならびに文の構造
第２回：平叙文の構造
第３回：疑問文の構造
第４回：疑問文にかかる制約（基本概念）
第５回：疑問文にかかる制約（帰結）
第６回：疑問文にかかる制約（問題点）
第７回：格
第８回：障壁理論（基本概念）
第９回：障壁理論（練習）
第１０回：障壁理論（帰結）
第１１回：障壁理論（問題点）
第１２回：相対最小性
第１３回：ミニマリストプログラム
第１４回：日英語比較（削除と移動）
第１５回：日英語比較（数量詞と量化詞）

[履修要件]

言語学概論程度の知識があることが望ましい。

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ, 独創的な視点のもと, 必要なデータ収集・分析を行い、更にその帰結を提示した期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない
ハンドアウトを配布する場合もあるが, 授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	日本大学文理学部　教授 井上　優				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	言語の対照研究										

[授業の概要・目的]

対照研究が「２つの事物を比べて考えることにより，両者の特性を浮かび上がらせ，両者を相対化する（公平に見る）視点を見出す研究」であることを述べ，文法・語彙・コミュニケーションに関する諸現象について井上がおこなった日本語と中国語，日本語と韓国語の対照研究について紹介する。

[到達目標]

・「対照研究」の基本的な考え方を身につける。
・「自分」と「自分と違うもの」を公平に見るセンスを身につける。
・身近な言語現象を注意深く観察し，物事を「しくみ」として捉えるセンスを身につける。

[授業計画と内容]

【８月２８日】
第１回：対照研究とは何か
第２回：対照研究のタイプ（１）―分析型―
第３回：対照研究のタイプ（２）―統合型―
第４回：対照研究のタイプ（３）―関連づけ型―
第５回：日本語と中国語の語彙―外来語受容法―

【８月２９日】
第６回：日本語と韓国語の文法（１）―テンス―
第７回：日本語と韓国語の文法（２）―アスペクト―
第８回：日本語と中国語の文法（１）―独立型の文法と協働型の文法―
第９回：日本語と中国語の文法（２）―話し手基準と聞き手基準―
第10回：日本語と中国語の文法（３）―気持ちの言語化―

【８月３０日】
第11回：日本語と中国語のコミュニケーション（１）―「はっきり」と「あいまい」―
第12回：日本語と中国語のコミュニケーション（２）―「会話」と「一言」―
第13回：日本語と中国語のコミュニケーション（３）―「個人」と「役割」―
第14回：日本語と中国語のコミュニケーション（４）―お礼の感覚―
第15回：日本語と中国語のコミュニケーション（５）―「親しみ」と「はりあい」―

[履修要件]

言語学および中国語・韓国語に関する知識は特に必要ない。

言語学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況）（50%）およびレポート（50%）

[教科書]

授業中に資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

井上優 『相席で黙っていられるか―日中言語行動比較論―』（岩波書店，2013年）ISBN:978-4-0002-8625-1

生越直樹編 『シリーズ言語科学４　対照言語学』（東京大学出版会，2002年）ISBN:978-4-1308-4074-3

定延利之編 『日本語学と通言語的研究との対話―テンス・アスペクト・ムード研究を通して―』（くろしお出版，2014年）ISBN:978-4-87424-624-5 C3081

廣瀬幸生ほか編 『比較・対照言語研究の新たな展開―三層モデルによる広がりと深まり―』（開拓社，2022年）ISBN:978-4-7589-2376-7

[授業外学修（予習・復習）等]

「対照研究」について調べておく。

（その他（オフィスアワー等））

・この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため，成績報告が遅れる場合がある。
・授業を通して，履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 肥後　時尚				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	古代エジプト語の理解に基づく古代エジプト史研究										

[授業の概要・目的]

3000年以上にわたり使用された古代エジプト語の文法の基礎を学び、古代エジプトにおける言語と歴史・文化・宗教の相関関係について学ぶ。
また、古代エジプト語の言語的特徴に着目した古代エジプト史研究の手法や研究視点を習得することを目的とする。

[到達目標]

・基本的なヒエログリフを読み、その意味を独力で調べることができる
・古代エジプト語（Middle Egyptian）の文法の基礎を理解する
・エジプト学の基礎をなす古代エジプト語の特性を理解し、実史料の分析に基づき古代エジプトの歴史・文化を吟味し、考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

古代エジプト語は、紀元前4000年紀から紀元後4世紀まで続く古代エジプト社会において使用された言語の総称である。1822年のシャンポリオンによる古代エジプト語解読の試みから現在にいたるまで、各種の古代エジプト語で記述された文献史料の読解に基づく研究は、古代エジプト史研究の主要なアプローチの１つとなっている。
本集中講義では、古代エジプト語の中で最も長い期間にわたり使用された言語である中期エジプト語（Middle Egyptian）の文法の基礎を学び、古代エジプトにおける言語と歴史・文化・宗教の相関関係について学ぶ。そして、同言語で記述された文献史料の分析に基づく基本的な歴史研究の研究視点や研究手法を学び、言語学・歴史学の視点から古代エジプトの歴史・文化理解を深めることを目指す。

第1回：古代エジプト語・古代エジプト史概説
第2回：古代エジプト語（中期エジプト語）の基礎 ①
第3回：古代エジプト語（中期エジプト語）の基礎 ②
第4回：古代エジプト語（中期エジプト語）の基礎 ③
第5回：古代エジプト史研究の方法論 ①
第6回：古代エジプト史研究の方法論 ②
第7回：古代エジプトの文献史料：自叙伝碑文・王家文書
第8回：古代エジプトの文献史料：物語文学・教訓文学
第9回：古代エジプトの文献史料：葬祭文学
第10回：古代エジプト語の史料にみる埋葬と儀礼
第11回：古代エジプト語の史料にみる冥界の描写とその歴史的変遷
第12回：古代エジプト語の史料にみる思想：死者の審判
第13回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の概念の研究
第14回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の女神の研究 ①
第15回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の女神の研究 ②

言語学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）70%・期末レポート30%）

[教科書]

授業中に指示する
講師が用意する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

言語の予習・復習となる練習問題や課題が課される場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

メールで対応する。
連絡先は授業初回前にKULASISにて履修者に伝達する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学25

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 Tao PAN				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Khotanese and Iranian Linguistics										

[授業の概要・目的]

This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.

[到達目標]

The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.

[授業計画と内容]

Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian
Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta
Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform
Week #04 Khotanese and Buddhist texts
Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna
Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian)
Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika
Week #15 Feedback

[履修要件]

Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 Tao PAN				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Tocharian and Indo-European Linguistics										

[授業の概要・目的]

This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.

[到達目標]

The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.

[授業計画と内容]

Week #01 Introduction: Discovery and History
Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1
Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2
Week #04 Script and Manuscripts
Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)
Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)
Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)
Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga
Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga
Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya
Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka
Week #12 Tocharian A: grammar
Week #13 Tocharian A: reading Vinaya
Week #14 Tocharian A: reading Vinaya
Week #15 Feedback

[履修要件]

Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』（Heidelberg, 2007）（for the Brahmi script）
Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』（Heidelberg, 1960）

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』（Paris, 2008）

（関連ＵＲＬ）

https://www.univie.ac.at/tocharian(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修（予習・復習）等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学27

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　安岡　孝一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多言語情報処理論										

[授業の概要・目的]

この授業では、コンピュータによる自然言語処理のうち、文法解析の手法に焦点をあてて講義をおこなう。古典中国語(漢文)、日本語、英語、フランス語、タイ語などの書写言語に対し、Universal Dependenciesを用いた依存構造(係り受け)解析について、演習形式で講義を進める。

[到達目標]

書写言語とその処理における「モデル化」というものが、どのような形でおこなわれているのか理解する。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、1課題あたり1〜2週の授業をする予定である。ただし、この分野は進捗が早いため、世界の研究状況の進捗に合わせ、適宜、内容を最新のものに差し替える。

1.Мельчук依存文法とUniversal Dependencies (1回)
2.BERT/RoBERTaなどの事前学習モデル (1回)
3.系列ラベリングと品詞付与 (1回)
4.依存構造(係り受け)解析アルゴリズム (2回)
5.古典中国語(漢文)の文法解析 (2回)
6.日本語の文法解析 (2回)
7.英語の文法解析 (1回)
8.フランス語の文法解析 (1回)
9.タイ語の文法解析 (1回)
10.その他の書写言語の文法解析 (3回)

[履修要件]

特別な予備知識は必要としないが、Google Colaboratory(あるいはgmail)の使用経験があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)

[教科書]

適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

依存構造(係り受け)解析を中心とする自然言語処理が、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学28

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 松本　亮				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	シベリア諸言語研究										

[授業の概要・目的]

ロシアには多数の少数民族、諸言語が話されています。そのうち、日本に地理的にも近く、言語類型論的にも近いとされるシベリアの諸言語について概観し、いくつかの言語について文法・テキスト読解を通して理解していきます。

[到達目標]

シベリアに分布する諸言語を外観した後、地域的な言語学・社会言語学的情報を知る。
具体的に取り上げる言語を、語彙や辞書、グロスをもとに構造を理解できるようになるとともに、言語学的トピックについて考察できるようになる。

[授業計画と内容]

第１～３回　シベリアの言語状況の概観
第４～８回　エヴェンキ語を取り上げる
第９～１３回　ネネツ語を取り上げる
第１４～１５回　ハンティ語を取り上げる

[履修要件]

言語学入門が履修済であることが望ましい
またロシア語の知識があるとなお良い（こちらはなくとも良い）

[成績評価の方法・観点]

授業中に課す数回の課題（６０％）と最終まとめのレポート（４０％）で評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日本語で読めるロシアやシベリアの諸数民族に関する文献は見ておいてください。
また授業で配布する文献を読む、課題を解く時間に当ててください。
受講生が関心を持つ、専攻とする言語との類型論的な比較ができるように各自言語学的トピックに関心を持って調べてください。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて受け付けるとともに、連絡が前もってあれば授業の前後の時間を空けることが可能です。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 荻原　裕敏				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ソグド語文献から見る文献言語研究										

[授業の概要・目的]

ソグド語について講義する。ソグド語は中期イラン語に位置づけられ、コータン語やホレズム語などとともに、東イラン語に分類される。残された資料は紀元1～2世紀以降のもので、碑文や貨幣銘の他に、紙及び木簡に書かれた文書が知られており、仏教・マニ教・キリスト教の宗教文献が大部分を占める。ソグド語文献は、主に中国甘粛省の敦煌と新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されているが、ソグド人が古代内陸アジア交易で重要な役割を果たしていたことから、ソグド研究は中央アジア史研究においても重要な位置を占める。加えて、ソグド人の交易活動を背景とした漢人との接触の結果、ソグド語に見られる漢語からの借用語は、中古漢語の音韻の再建にも利用されてきた。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。

[到達目標]

ソグド語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自らソグド語のテキストを読むことができるようになるとともに、古代イラン語から現代イラン語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通した言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。

[授業計画と内容]

以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の情況に応じて、講義担当者が適切に決める。
１　導入【１週】
研究史、イラン語におけソグド語の位置づけ及び資料・工具書の紹介
２　ソグド語の基礎【６週】
ソグド語を表記する文字:ソグド文字・マニ文字・シリア文字
ソグド語の音韻・文法
３　出土文献資料による文献言語研究の方法論【７週】
出土文献資料の扱い方
ソグド語文献講読
出土文献解読による言語体系の解明とその可能性
出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景
４　フィードバック【１週】
期末レポート
フィードバック

言語学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート（70%）・平常点（小レポート）（30%）

[教科書]

ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

（参考書）

Emmerick, Ronald E. and Maria Macuch (eds.) 『The Literature of Pre-Islamic Iran: Companion Volume I to A History of Persian Literature』（I. B. Tauris, 2009）
Gershevitch, Ilya 『A Grammar of Manichean Sogdian』（Blackwel, 1954）
Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』（Routledge, 2009）
Gharib, Badresaman 『Sogdian Dictionary: Sogdian-Persian-English (2nd ed.)』（Farhangan Publications, 2004）
Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』（Reichert, 1989）
Sims-Williams, Nicholas 『A Dictionary: Christian Sogdian, Syriac and English (2nd ed., rev.)』（Reichert, 2021）
Sims-Williams, Nicholas and Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Sogdian and Bactrian (2nd ed., rev.)』（Brepols, 2022）
吉田 豊 『ソグド語文法講義』（臨川書店, 2022年）
その他、授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学人文学研究科　教授 米田　信子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	バントゥ諸語概説										

[授業の概要・目的]

バントゥ諸語はアフリカ４大語族のひとつであるニジェール・コンゴ大語族に属する言語群で、アフリカ大陸赤道以南に広く分布する。この講義では、バントゥ諸語研究で注目されているテーマを取り上げながら、バントゥ諸語に見られる言語現象を考察する。それらの言語現象を個別言語(群)の現象として理解するだけでなく、現象間の相関関係を検討し、類型論や対照研究に発展させることを目的とする。

[到達目標]

バントゥ諸語に共通する文法特徴を理解し、説明することができる。
バントゥ諸語に見られるバリエーションを理解し、説明することができる。
現象間の相関関係を検討することができる。
バントゥ諸語に見られる現象を類型論や対照研究に発展させることができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。

第1回　バントゥ諸語とは
第2回　名詞クラス
第3回　動詞1
第4回　動詞2
第5回　動詞3
第6回　声調1
第7回　声調2
第8回　名詞修飾節1
第9回　名詞修飾節2
第10回 情報構造1
第11回 情報構造2
第12回 情報構造3
第13回 場所格1
第14回 場所格2
第15回 フィードバック

[履修要件]

特になし

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

小レポート：20点×2回、最終レポート：60点

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。
なお、４回以上授業を欠席した場合は単位を認めない。また授業中の(起きていようとする努力が見られない)居眠りや授業以外の作業をしている場合は「出席」とはみなさない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）

Mark Van de Velde et al. (eds) 『The Bantu Languages (2nd edition)』（Routledge, 2019）ISBN:978-1-138-79967-7

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示した論文を必ず読んだ上で授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学31

科目ナンバリング	G-LET29 6M351 LJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 准教授　横森　大輔				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	会話分析入門：相互行為から見た言語の姿										

[授業の概要・目的]

どのような言語現象やコミュニケーション現象も、人と人との相互行為（インタラクション）の中で生み出されています。この授業では、相互行為言語学、すなわち言語とコミュニケーションを相互行為との関連で理解しようとする研究枠組みの理論と実践を学ぶことを通じて、言語コミュニケーション研究を行うための基礎を涵養します。

[到達目標]

・現実の会話における言語使用の実態について理解を深める
・個々の語彙や構文が相互行為の中で果たす作用について分析できる
・「隣接対」「ターン（発話順番）」「リペア（修復）」「行為連鎖」など会話分析の基礎概念についての知識を理解する
・言語コミュニケーションの実例を観察して、会話分析の基礎概念を参照して分析を行うことができるようになる
・日常生活やメディアにみられるコミュニケーションに対して、学術的な視点から観察・理解を行うことができるようになる

[授業計画と内容]

データ分析実習と教科書の講読を交互に実施します。

第1回　[講義] 言語学・会話分析・談話分析：言語コミュニケーション研究の見取り図
第2回　[実習] 会話データに触れてみる
第3回　[講読] 「会話の流れ」の中の発話：隣接対・選好性・連鎖構造（第4章第1-2節と3.1節冒頭, pp.77-92）
第4回　[実習] 隣接対の観察
第5回　[講読] ターンの取り方：順番交替規則と発話の構造（第5章第1-2節, pp.118-132）
第6回　[実習] 隣接対の分類
第7回　[講読] 話し手-聞き手の共同作業としての「文」産出（第6章第3-4節, pp.151-167）
第8回　[実習] ターンの観察と分類
第9回　[講読] 話し手-聞き手の共同作業としての「物語」構築（第7章第1,3-5節, pp.169-171, 178-189）

第10回　[実習] 物語の観察
第11回　[講読] 相互理解の達成プロセス：修復（第8章第1-3節, pp.191-205）
第12回　[実習] 修復の観察
第13回　[講読] 2つの各論：言語と非言語
-（各論1）相互行為の資源としての誇張表現（第9章第3節, pp.236-241）
-（各論2）相互行為の資源としての身体行動（第12章第4節, pp.301-309）
第14回　[実習] 相互行為資源の記述実践
第15回　[講義] まとめ（フィードバック）

言語学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

言語学(特殊講義)(2)

[履修要件]

事前知識は特に要求されませんが、「話しことば」「コミュニケーション」「会話」といったトピックに学術的に取り組む強い意欲をもっていることが望ましいです。

[成績評価の方法・観点]

授業課題（予習課題、データ分析実習、発表担当）への取り組み：70点
期末レポート：30点

[教科書]

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』（勁草書房, 2017年）ISBN:978-4326602964（※京大図書館のサイトから電子書籍版にアクセス可能です<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000044758>。ただし、深く読み込みたい人には紙の書籍をお勧めします。）

[参考書等]

（参考書）
平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実（編） 『会話分析の広がり』（ひつじ書房, 2018年）
N.J.エンフィールド 『やりとりの言語学』（大修館書店, 2015年）

[授業外学修（予習・復習）等]

・（隔週）教科書の予習（教科書の読解を補助する設問に、オンラインフォームから回答を提出する）
・（隔週）データ分析実習の作業

（その他（オフィスアワー等））

授業関連の連絡にはSlackを利用します。Slackを初めて使う方には初回（まで）に説明します。
口頭での質問等がある場合は、授業後または別途調整した日程にて受け付けます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学32

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	大阪学院大学　情報学部　准教授 笹間　史子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	調音音声学										

[授業の概要・目的]

世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA（International Phonetic Alphabet, 国際音声記号）が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。

[到達目標]

・IPAの発音を身につける。
・音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。
・IPAを用いて音声表記ができるようになる。
・IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。

[授業計画と内容]

音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。
第１回　イントロダクション、音声器官のしくみ
第２回　気流と発声
第３回　破裂音
第４回　鼻音、ふるえ音、はじき音
第５回　摩擦音①
第６回　摩擦音②、小テスト１
第７回　接近音、その他の子音
第８回　非肺気流による子音①
第９回　非肺気流による子音②、小テスト２
第10回　子音のまとめ、表記練習
第11回　第一次基本母音
第12回　第二次基本母音、その他の母音
第13回　母音のまとめ、表記練習、小テスト３
第14回　総復習と発表①
第15回　総復習と発表②
小テストは第６回、第９回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。

[履修要件]

特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。
・平常点（20点、授業内での発表を含む）
・小テスト（３回の聞き取りテスト、各10点）
・発音テスト（40点）
・レポート（10点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。
授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要に応じて次回以降の授業後に担当者に確認すること。
授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためて観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。
休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。
授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学33

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 教授　パリハワダナ　ルチラ				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究										

[授業の概要・目的]

日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生（日研生）と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。

[到達目標]

本授業の到達目標は、
(1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。
(2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めること
である。

[授業計画と内容]

以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。

第1回　ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成
第2回　日本語学習者の初歩的動機・グループワーク①：選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析

第3回　学習ニーズと多様な日本語（やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語）・グループワーク②：学習ニーズへの配慮
第4回　　コースデザイン・グループワーク③：コースにおける位置づけ・到達目標設定
第5回　教授法とシラバス・グループワーク④：教授法の検討
第6回　漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク⑤：メディアの活用法及び教材化の課題と利点
第7回　教室活動・グループワーク⑥：教室活動と教科書分析
第8回　中間発表会と前半の総括
第9回　学習困難な日本語――学習を困難にしている理由とは？・グループワーク⑦：テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り
第10回　自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク⑧：典型的な使用場面と状況
第11回　教科書分析の方法・グループワーク⑨：教科書分析
第12回　類推と転移・グループワーク⑩：他言語との比較
第13回　誤用分析の方法・グループワーク⑪：誤用分析
第14回　アクション・リサーチと教師ビリーフ・グループワーク⑫：期末発表の準備
　　≪グループ別期末発表≫

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

第15回　フィードバック

[履修要件]

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

[成績評価の方法・観点]

以下の通りに評価する。
　授業活動への参加度合：30%
　中間発表・中間レポート：30%
　期末発表・期末レポート：40%
なお、演習科目であるため出席も重視する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

　（参考書）
白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク）
ISBN:ISBN4-88319-201-6
川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（上）』（ひつじ書房）
ISBN:ISBN4-89476-251-X
川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（下）』（ひつじ書房）
ISBN:ISBN4-89476-252-8
その他適宜授業中に提示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　千田　俊太郎 文学研究科　准教授　CATT, Adam Alvah 文学研究科　教授　定延　利之 文学研究科　講師　大竹　昌巳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	個別言語と一般言語理論(1)										

[授業の概要・目的]

本演習では、個別言語の特定言語現象についての分析がいかに一般言語理論に貢献しうるか、種々の論文(主として英文)に取り組みながら考察する。前期は主に音韻論を取り上げる。

[到達目標]

一般言語理論が個別言語の分析にどう役に立つのか理解を深める。

[授業計画と内容]

この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割り当てられた資料についてハンドアウトを準備して内容の解説をする。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお、今年度は千田俊太郎がすべての授業を担当する。

第1回　ガイダンス
第2回　アクセントとトーン
第3回　音素
第4回　音節とモーラ
第5回　音節と分節音1
第6回　音節と分節音2
第7回　音節と分節音3
第8回　音韻論における「自然さ」
第9回　音象徴1
第10回　音象徴2
第11回　語と音韻論1
第12回　語と音韻論2
第13回　イントネーション
第14回　総括
第15回　フィードバック
（但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性がある）

[履修要件]

事前に言語学講義Iを履修しているか，もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40%），討論への積極的な参加（10%），期末レポート（50%）により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントあるいはpdfファイルを配布するか、urlを指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては，指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく，他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが，メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学35

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　千田　俊太郎 文学研究科　准教授　CATT, Adam Alvah 文学研究科　教授　定延　利之 文学研究科　講師　大竹　昌巳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	個別言語と一般言語理論(2)										

[授業の概要・目的]

本演習では、個別言語の特定言語現象についての分析がいかに一般言語理論に貢献しうるか、種々の論文(主として英文)に取り組みながら考察する。後期は主に統語論を取り上げる。

[到達目標]

一般言語理論が個別言語の分析にどう役に立つのか理解を深める。

[授業計画と内容]

この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割り当てられた資料についてハンドアウトを準備して内容の解説をする。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお、今年度は千田俊太郎がすべての授業を担当する。

第1回　ガイダンス
第2回　移動動詞
第3回　話法
第4回　語順1
第5回　語順2
第6回　名詞句
第7回　主語
第8回　主語と主題
第9回　抱合
第10回　目的語
第11回　他動詞
第12回　接置詞
第13回　否定
第14回　総括
第15回　フィードバック
（但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性がある）

[履修要件]

事前に言語学講義Iを履修しているか，もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40%），討論への積極的な参加（10%），期末レポート（50%）により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントあるいはpdfファイルを配布するか、urlを指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては，指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく，他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが，メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学36

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　守田　貴弘				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	動詞意味論										

[授業の概要・目的]

現代言語学の論文(日本語または英語)を読むことで言語学の議論の方法を学び，自身の研究に反映させることを目的とする．本年度のテーマは動詞の語彙意味論にかかわる分野として，心理動詞，移動動詞，状態変化動詞など，一定の事象に関する論文を扱う．

[到達目標]

・言語学の専門的な文献を読みこなすことができるようになる．
・言語学で研究テーマとなる題材の一端を理解できる．
・自身の興味のある対象について，言語学的な方法でレポート・論文が作成できるようになる．

[授業計画と内容]

第1回：導入の講義，担当割り当て
第2回-第14回：ジャーナルや論文集から本授業の目的に沿った論文を選んで輪読する．
第15回：フィードバック．
扱う文献の詳細は初回授業において，履修者のニーズに応じて最終的に決定する．短めかつそれほど難解ではない論文を1-2回で扱う．

[履修要件]

全共科目「言語科学I」「言語科学II」，総人科目「言語科学ゼミナールI」等を履修済であるか，独習によって言語学一般についての基礎的知識を有していることが望ましい．

[成績評価の方法・観点]

担当回の報告内容（70%）や授業全般への積極的な参加（30%）を評価する．

[教科書]

取り上げる文献をファイル配布する．

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・文献ごとに担当者を決定するのでしっかり準備をして報告をすること．
・担当となっていない文献についても読んでおき，授業中の議論に参加できるよう努めること．
・ただ内容を理解するだけでなく，それに対する批判的議論ができるように心がける．

（その他（オフィスアワー等））

PandAの「お知らせ」を受信・確認できるようにしておいてください．文献や発表資料はPandAで共有します．

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学37

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　堀口　大樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	ロシア語の動詞接辞の諸相										

[授業の概要・目的]

「ロシア語の動詞接辞の諸相」と題し、ロシア語の動詞接辞（接頭辞・接尾辞）を、語形成論をはじめとする言語学の様々な分野（アスペクト論、意味論、語彙論、辞書論、語用論、文体論、言語規範論）から捉える。

[到達目標]

一般に接頭辞や接尾辞の知識は、ロシア語の語彙の習得において大いに役立つが、とりわけ動詞は文の中心的存在であることから、動詞の接辞の知識はロシア語の文法の理解と語彙の習得においてきわめて重要である。動詞の接辞が示す多様な意味、語形成のメカニズムや語形成モデル、話しことばに特有の接辞付加、テキストにおける接辞の使用と文体的効果、「ちょっと読む」「読みすぎて嫌な結果を招く」「満足に読む」などのアクツィオンスアルトを示す接辞を用いた豊かな言語表現を学ぶことで、ロシア語の語形成の活き活きとした側面に触れ、自らのロシア語の語彙力、テキスト理解力、表現力の向上に役立てる。

[授業計画と内容]

1. ガイダンス
2. 接頭辞の空間的意味①
3. 接頭辞の空間的意味②
4. 接辞による完了化と不完了化①
5. 接辞による完了化と不完了化②
6. 接頭辞のアスペクト的意味①
7. 接頭辞のアスペクト的意味②
8. 接尾辞のアスペクト的意味③
9. 借用語動詞の接辞付加①
10. 借用語動詞の接辞付加②
11. 複接頭辞付加
13. テキストにおける接辞、接辞と文体
14. その他の諸問題
15. まとめ

[履修要件]

ロシア語の初級文法を終えていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況（60%）・期末レポート（40%）に基づいて評価する。

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
授業でプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外で日頃からロシア語学習を積極的に行って運用能力を高めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

教室の定員で人数制限をする。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学38

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　堀口　大樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	「ルスキー・ミール」批評										

[授業の概要・目的]

ロシアによるウクライナ侵攻のモチーフの一つになっているルスキー・ミール（ｒｕｓｓｋｉｊ ｍｉｒ）「ロシア世界」のイデオロギーでは、ロシア語が重要な位置を占めている。本授業では、ロシア語による関連文献の講読やマスメディアの言説の分析を通じて、ルスキー・ミールを言語の観点から批判的に分析する。

[到達目標]

①言語対外的なソフトパワーとして利用され得る側面や、言語が関わるプロパガンダ、帝国主義、拡張主義の問題を批判的に捉える力を身につける。
②ロシア語の読解力を向上させる。

[授業計画と内容]

1. ガイダンス
2. ルスキー・ミール①
3. ルスキー・ミール②
4. ルスキー・ミール③
5. 基金「ルスキー・ミール」①
6. 基金「ルスキー・ミール」②
7. ウクライナ①
8. ウクライナ②
9. ベラルーシ
10. バルト3国
11. 中央アジア
12. コーカサス
13. 非旧ソ連諸国
14. その他の諸問題
15. まとめ

[履修要件]

「ロシア語IIB（文法）」を終えている、またはロシア語の基礎文法を一通り習得済みであることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況（60%）・レポート（40%）に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない
以下の文献を中心に扱う。

言語学(演習) (2)へ続く↓↓↓

言語学(演習) (2)

Русский мир и русский язык. В. Никонов. 2017.

http://v-nikonov.ru/publications/article/192492/

Геокультурные лики русского мира. Д.В.Сухоруков, Ю. Н. Гладский. 2022.（無料ダウンロード可能）

他、適宜テキストを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃からロシア語の運用能力を高める努力をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　堀口　大樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	日露法廷通訳論										

[授業の概要・目的]

「日露法廷通訳論」と題し、日本語とロシア語を題材とした法廷通訳論を、一般的な通訳・翻訳論を踏まえた上で理論的かつ実践的に学ぶ。

[到達目標]

異言語間のコミュニケーションを担う一般的な通訳・翻訳論を踏まえた上で、法廷における一連の言語行為を法廷通訳人の視点から理解する。
法廷通訳人の職務を知ることで、自身の言語学習や言語研究に役立つ知識を身につける。

[授業計画と内容]

講義形式と演習形式（日本語・ロシア語の簡単な通訳やロールプレイ、翻訳）を併用する。

1. 法廷通訳論入門
2. 通訳・翻訳概論①
3. 通訳・翻訳概論②
4. 通訳・翻訳概論③
5. 法廷通訳をめぐる諸問題
6. ロシア語裁判ドラマ視聴①
7. ロシア語裁判ドラマ視聴②
8. 法廷におけることば①
9. 法廷におけることば②
10. 法廷におけることば③
11. 法廷通訳演習①
12. 法廷通訳演習②
13. 裁判傍聴報告会
14. その他の諸問題
15. 総括

授業回数は15回とする。
学期中に、法廷におけることばに注目して刑事裁判を傍聴し、学期末に授業内で報告会を行う。

[履修要件]

全学科目「ロシア語IIB（文法）」など、ロシア語の初級・中級文法を一通り終えていることが望ましい。ロシア語の知識はないが、本授業の履修や聴講を希望する場合は相談のこと。

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
最高裁判所事務総局『法廷通訳ガイドブック実践編ロシア語』法曹会、2013年
橋内武・堀田秀吾『法と言語　法言語学へのいざない』くろしお出版、2012年
水野かほる、津田守編『裁判員裁判時代の法廷通訳人』大阪大学出版会、2016年
渡辺修、水野真木子、中村幸子『実践司法通訳　シナリオで学ぶ法廷通訳』現代人文社、2010年

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から母語と外国語の運用能力を高める努力をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

メールで事前に連絡のこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学40

科目ナンバリング	G-LET29 77241 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					**担当者所属・職名・氏名**	人間・環境学研究科 准教授　堀口　大樹				
配当学年	1回生以上	**単位数**	2	**開講年度・開講期**	2023・後期	**曜時限**	火4	**授業形態**	演習	**使用言語**	日本語
題目	パンデミック時代のロシア語										

[授業の概要・目的]

「パンデミック時代のロシア語」と題し、新型コロナウィルスに関連したロシア語の語彙・文法現象に関する論文集（Русский язык коронавирусной эпохи『コロナウィルス時代のロシア語』2021年）に収録されている数点の論文を輪読する。随時日本語や英語と比較を行う。

[到達目標]

社会変化を反映する言語研究の方法論や可能性について学ぶ。
ロシア語の学術文献の読解力を身につける。

[授業計画と内容]

演習形式（文献購読）とする。

1. ガイダンス
2. 語彙
3. 語彙
4. 語彙
5. 語彙
6. 語形成
7. 語形成
8. 語形成
9. 語形成
10. メタファー
11. メタファー
12. ディスコース
13. ディスコース
14. その他の諸問題
15. 総括

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点60%、期末レポート30%とする。

[教科書]

授業中に指示する

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃からロシア語の運用能力を高める努力をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

随時受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学41

科目ナンバリング	G-LET29 7M352 SJ37										
授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　千田　俊太郎 文学研究科　准教授　CATT, Adam Alvah 文学研究科　教授　定延　利之 文学研究科　講師　大竹　昌巳				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4,5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	言語学の諸問題										

[授業の概要・目的]

修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。

[到達目標]

1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。
2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。
3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。
4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。

[授業計画と内容]

大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、年30回の授業の中で少なくとも１回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ１回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に，自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。

前期
　第1回　イントロダクション・発表
　第2回～第14回　発表
　第15回　発表・まとめ

後期
　第1回　イントロダクション・発表
　第2回～第14回　発表
　第15回　発表・まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する

言語学(演習)(2)へ続く↓↓↓

言語学(演習)(2)

[教科書]

ハンドアウトを使用する

[参考書等]

（参考書）
特になし

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとすること。

（その他（オフィスアワー等））

大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89620 LJ48										
授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）(語学) Sumerian					担当者所属・職名・氏名	国士舘大学イラク古代文化研究所 特別研究員 森　若葉				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介										

[授業の概要・目的]

古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。

この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。

文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。

比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となってのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。

[到達目標]

世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する.

また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。

＜前期＞楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。

第1回　シュメール語の背景－メソポタミア文明の世界について
第2回　シュメール語と楔形文字について
第3回　楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）
第4回　楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）
第5回　シュメール語文法（１）、楔形文字文献について
第6回　シュメール語文法（２）、王碑文を読む
第7回　シュメール語文法（３）、王碑文を読む
第8回　シュメール語文法（４）、行政文書を読む
第9回　楔形文字粘土板実習－粘土板を作成
第10回　シュメール語文法（５）、行政文書を読む
第11回　シュメール文学について
第12回　シュメール文学作品を読む（１）
第13回　シュメール・メソポタミアの「法典」紹介
第14回　裁判文書、行政文書を読む
第15回　シュメール文学作品を読む（２）

シュメール語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(2)

＜後期＞
　文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。
第1回　文献から見るシュメールの生活
第2回　シュメール語文法（６）、行政文書を読む
第3回　シュメール語文法（７）、行政文書を読む
第4回　シュメール語文法（８）、行政文書を読む
第5回　シュメール文学作品を読む（３）
第6回　シュメール語文法（９）、行政文書を読む
第7回　シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
第8回　京都大学総合博物館所蔵資料紹介
第9回　京都大学総合博物館所蔵資料を読む
第10回　京都大学総合博物館粘土板見学実習
第11回　シュメール文学作品を読む（４）
第12回　シュメール文学作品を読む（５）
第13回　行政文書、王碑文を読む
第14回　行政文書、王碑文を読む
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定.

[教科書]

使用しない
　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する.
　楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する
　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する.

[授業外学修（予習・復習）等]

　事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89624 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）(語学) Swahili					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 井戸根　綾子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（初級）										

[授業の概要・目的]

バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。またテキストの会話表現には、衣食住の生活習慣など文化的あるいは社会的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関しても知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。

[到達目標]

１：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する
２：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる
３：短い日常会話の流れを把握できる
４：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション／スワヒリ語文法の概要
第2回　第1課／現在時制
第3回　第2課／コピュラ文
第4回　第4課／所有表現
第5回　第5課／未来時制
第6回　名詞クラス
第7回　第3課／存在表現
第8回　第1～5課の復習と補足説明
第9回　第6課／あいさつ表現
第10回　第7課／過去時制
第11回　第8課／完了時制
第12回　第9課／形容詞
第13回　第10課／接続形
第14回　第6～10課の復習と補足説明
第15回　期末試験
第16回　フィードバック
なお、授業の進度は適宜調整する

スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス+　スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のＣＤを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学44

科目ナンバリング	G-LET49 89625 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）(語学) Swahili					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 井戸根　綾子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（中級）										

[授業の概要・目的]

テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。

[到達目標]

１：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する
２：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる
３：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる
４：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション／第1～10課の復習
第2回　第11課／時間
第3回　第12課／指示詞
第4回　第13課／使役
第5回　第14課／条件節
第6回　関係節
第7回　第15課／受身
第8回　第11～15課の復習と補足説明
第9回　第16課／相互形
第10回　第17課／仮想時制
第11回　第18課／複合時制
第12回　第19課／ことわざ・なぞなぞ
第13回　第20課／手紙の書き方
第14回　第16～20課の復習と補足説明
第15回　期末試験
第16回　フィードバック
なお、授業の進度は適宜調整する

スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス+　スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のＣＤを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学45

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	追手門学院大学 社会学部 准教授	松谷　実のり			
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会調査入門（社会調査士科目A）										

[授業の概要・目的]

本講義では、社会調査の目的や意義、分類、方法と調査の具体例に関する基本的事項を学ぶ。量的調査と質的調査の違いを理解した上で、調査方法それぞれの特徴や実施上の注意点を理解する。社会調査のプロセスを把握し、社会調査の結果を読むため、および社会調査を自ら実施するための基礎的な技術を身につけることを目的とする。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。

[到達目標]

社会調査の目的と意義、歴史を理解する。社会調査の種類とその違いを理解し、目的に合わせて使い分けられるようになる。社会調査のプロセスに関する基本的事項を理解する。

[授業計画と内容]

1.社会調査の目的と意義
2.社会調査の歴史
3.社会調査の種類
4.社会調査の方法と設計
5.調査倫理
6.仮説と測定
7.全数調査と標本調査
8.既存統計の利用
9.質問紙調査の事例1
10.質問紙調査の事例2
11.質的調査の信頼性と代表性
12.ドキュメント分析の事例
13.参与観察の事例
14.インタビュー調査の事例
15.エスノメソドロジーの事例

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

（その他（オフィスアワー等））

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学46

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学　教授　　筒井　淳也				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	現代社会と家族変動：「生涯学」の観点から										

[授業の概要・目的]

　この講義では、家族や生涯（人生、ライフコース）をめぐる変化を、より広い文脈や多様な視角から学ぶ。私たちが経験する家族や人生は、人口学的特性が異なる時代で経験されたものとは全く異なっている。たとえば平均寿命が60歳前後である時代では、現在のように長い高齢期は存在しなかった。しかし100歳以上人口が8万人を超えた今では、「人生100年」を見据えることは決しておかしなことではない。

　家族や生涯はまた、時代や社会ごとの経済的環境や制度的環境によっても異なって経験される。たとえば一部の東アジア社会では、欧米の女性が一時期経験した主婦化が経験されていない。講義では、時代観・地域観比較の観点から、こういった多様性について論じる。

　また、社会学の近隣分野（心理学や人類学など）が生涯に対してどうアプローチしているのかについても紹介し、家族と生涯に対する複合的な見方を説明する。

[到達目標]

家族と生涯（人生、ライフコース）について、社会学的見方を軸にしつつ、複合的な観点から理解できるようになること。特に時代や地域ごとの多様性を踏まえつつ、人口学的特性や制度の概念を用いて、できるかぎり一貫した理論枠組みから家族と生涯を理解することを目指す。

[授業計画と内容]

第1回家族と近代化の基本理論1：家経済から雇用へ
第2回家族と近代化の基本理論2：結婚の変化
第3回家族と近代化の基本理論3：東アジアの「近代化」
第4回家族の概念と法制度1：結婚
第5回家族の概念と法制度2：親子関係
第6回生涯学1：老いは衰退か？老年学と行動科学
第7回生涯学2：幼年期の経験はその後の人生に影響するか？
第8回生涯学3：人々の「生涯観」の実態
第9回人口学的変化とライフコース変動1：高齢期経験の変化
第10回人口学的変化とライフコース変動2：女性のライフコースの変化
第11回日本の家族と仕事1：福祉レジーム論
第12回日本の家族と仕事2：日本的雇用と日本社会システム
第13回日本の家族と仕事3：家族主義の多様性
第14回現代社会と家族のこれから
＜＜期末レポート＞＞
第15回　フィードバック

社会学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
筒井淳也・前田泰樹 『社会学入門』（有斐閣）
筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）
筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで。連絡先は授業中に知らせる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学47

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　Stephane Heim				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	産業と労働社会学										

[授業の概要・目的]

産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会学的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。

本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。

[到達目標]

本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。

[授業計画と内容]

第１回　産業と労働社会学のアプローチ
第２回　雇用システムと労使関係
第３回　企業内労働市場の形成
第４回　日本型雇用システム
第５回　日本労働市場の形成
第６回　日本労働市場の変容
第７回　賃金格差と社会階層の変化
第８回　サービス産業の展開と就業形態の多様化
第９回　賃労働と福祉レジームの形成・課題
第１０回　失業と非正規雇用の国際比較
第１１回　欧州連合単一市場の形成と労働問題
第１２回　フランスの雇用システム・賃金・労使関係
第１３回　自動車産業と労働市場の国際比較
第１４回　授業のまとめ
第１５回　フィードバック

受講生の関心により内容を変更することもある。

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートによる（100%）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学48

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学　教授　　筒井　淳也				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	家族社会学：理論と実証										

[授業の概要・目的]

　この講義では、社会学の一分野である家族社会学について、理論と実証の両方の観点から体系的に説明する。
　家族社会学は、近代化論を軸とした基礎的な理論枠組み（たとえば直系家族制から夫婦家族制への移行）を持ちつつも、その実態の多様性から、常に理論研究と実証研究が絡み合いながら発展してきた分野である。本講義では、主に計量社会学の研究を参照しつつ、家族の変化や多様性について説明する際に必要な実証研究における概念や調査のあり方について説明する。

[到達目標]

家族を説明するための基礎的な理論枠組み、概念、実証における測定手法などを体系的に説明できるようになる。それをもとに、家族社会学の実証研究を読み解き、現代家族のあり方について深い見方を身につける。

[授業計画と内容]

第1回　家族の実証研究の特性：質的・量的調査
第2回　記述と分析：標準的な分析手法
第3回　人口学と社会調査
第4回　社会統計の基礎単位としての世帯
第5回　家族の変化と社会構造
第6回　結婚の理論と実証1：配偶者選択と同類婚
第7回　結婚の理論と実証2：結婚タイミング、幸福度
第8回　親子関係の理論と実証1：「系」の概念と測定
第9回　第9回　親子関係の理論と実証2：成人親子関係
第10回　家族とネットワーク
第11回　多様な絆：事実婚、同棲、同性婚の実態把握
第12回　無償労働：家事分担の実証
第13回　家族・ケア労働・生活保障
第14回　家族のこれからを考える
＜＜期末レポート＞＞
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

社会学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）
筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで連絡してください。（連絡先は授業内でお知らせします。）

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学49

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　岸　政彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法論（社会調査士科目Ｆ）										

[授業の概要・目的]

「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。

[到達目標]

この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。

[授業計画と内容]

1 導入――質的調査は何をするのか
2 一般化という問題――普遍性と固有性のあいだで
3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1)
4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2)
5 「理由のある行為」とは何か(1)――ウィリスとブルデュー
6 主体的なものと状況的なもの――丸山里美
7 身体と意味――石岡丈昇
8 「裸足」とは何か――上間陽子
9 男であることの社会学――打越正行
10 語りのなかに引きずり込まれる――岸政彦(1)
11 語り手から名前を呼ばれる――岸政彦(2)
12 聞くという経験を書く――岸政彦(3)
13 「理由のある行為」とは何か(2)――ウェーバー
14 方法/倫理/政治
15 まとめ――質的調査は何をすればよいのか

[履修要件]

特になし

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%。

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学50

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	東京大学社会科学研究所　教授 有田　伸				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	教育・労働市場・社会階層の比較社会学										

[授業の概要・目的]

ひとびとが教育を終えた後、どのように仕事に就き、どのようにキャリアを達成していくのか、またそこにどのような格差が生じるのかは、それぞれの社会の制度的条件に応じて大きく異なる。この授業では、国際比較、特に韓国をはじめとする東アジア社会との比較の視点から、日本の教育・労働市場・社会階層の特徴をあきらかにしていく。具体的には、入職時の選抜、所得・主観的地位評価の規定構造、雇用形態の違いに伴う報酬格差、職業的スキルの獲得とその認定方法などを題材とし、各社会の制度的条件やそれを支える想定や規範の違いにも着目しながら、社会学の視点から日本の雇用システムの特徴とその社会的影響を考察していく。

[到達目標]

この授業を通じ、ともすれば自明視されがちな社会の仕組み・あり方を相対化し、その特徴を説明していくための力を養うことを目指す。また受講者間でのディスカッションも積極的に行うことで、本授業の主題に関する自らの気づきを適切に言語化するとともに、他者の気づきを理解し、それをふまえてさらに議論を発展させていく力を身に付ける。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
第2回　比較社会研究の意義と方法
第3回　社会経済的格差を理解するための理論的視座
第4回　新卒者の入職と選抜(1)
第5回　新卒者の入職と選抜(2)
第6回　所得・主観的地位評価の規定構造(1)
第7回　所得・主観的地位評価の規定構造(2)
第8回　ディスカッション・フィードバック
第9回　正規/非正規雇用間の格差(1)
第10回　正規/非正規雇用間の格差(2)
第11回　職業的スキルの獲得とその認定方法(1)
第12回　職業的スキルの獲得とその認定方法(2)
第13回　ディスカッション・フィードバック
第14回　まとめと総括
第15回　最終試験・フィードバック

[履修要件]

特になし

社会学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業・ディスカッションへの参加（50%）、最終筆記試験（50%）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
有田伸 『就業機会と報酬格差の社会学―非正規雇用・社会階層の日韓比較』（東京大学出版会）（2016年）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：授業時の指示に応じて、次の授業までに示された資料・文献にあらかじめ目を通し、提示された論点について検討する。
復習：各授業の後に、その内容を振り返りながら、それぞれが関心を持つ社会に関して自ら同様の考察を行う。

（その他（オフィスアワー等））

質問等あればメールで連絡（sarita@iss.u-tokyo.ac.jp）

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学51

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Welfare Regime and Cross-Border Migration in Asia: labor, marriage and evacuation										

[授業の概要・目的]

This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force but also accepting migrants, and domestic workers, in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familialism in Asian countries justified the maintenance of “family value” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic workers as extra family members. Sometimes this familialism triggered cross-border marriage for the formation of family welfare, which became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, the divergence of the welfare regime of Asian countries is observed.

[到達目標]

Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries and will understand how these institutional frameworks operate and their impact on individuals and society.

[授業計画と内容]

A detailed plan for each class may be changed depending on the participants.
The contents of the course include the following classes.

1. Economic development in Asia and population dynamics
2. Overview of East Asian migration policy
3. Internalization/externalization of care and migration
4. Entertainment and marriage migration
5. Ageing, welfare policy, and migration
6. Feminization of migration: sex, care and family
7. Welfare Regime / Familialism
8. Social integration/multicultural policy
9. Labor migration and exploitation
10. Global politics of sending strategy
11. International labor market formation
12. Migration regime: (non)binary of temporariness and permanency
13. Action and research in migration study
14. Pandemic, access to welfare, and immigration policy
15. Conclusion

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%).

[教科書]

Papers and related documents will be distributed in class.

[参考書等]

（参考書）

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.
Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.
Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.
Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestics and New Rich Employers in Taiwan, Durhan and London: Duke University Press.
Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.
Steger, Manfred B., 2014,“Approaches to the study of globalization,” Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants may be required to read papers related to the class

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
(@) indicates @.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学52

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	関西大学社会学部　准教授 溝口　佑爾				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	基本的な統計資料とデータの分析（社会調査士科目C）										

[授業の概要・目的]

この講義では、社会調査や官庁統計から得られるデータを分析する際に必要となる基礎的な統計学の知識（記述統計）を教えます。データの種類とそれぞれの特徴について簡単に解説した後、1変数の情報を記述する方法（度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など）、2変数間の関係を分析する方法（クロス集計表、相関係数、回帰分析など）を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。

[到達目標]

本講義の到達目標は以下の4つです。
a. データの種類とその特徴について理解する
b. 1変数の情報を適切に記述する方法を理解する（度数分布表、代表値、散布度の指標など）
c. 2変数の関係を適切に分析する方法を理解する（クロス集計表、相関係数など）
d. a～cを通して、統計分析を含んだ情報（マスメディア・専門論文）を適切に評価できる。

[授業計画と内容]

基本的に以下ような授業内容が組まれています。ただし、受講生のスキルや理解度に応じて、順番や回数を変えることがあります。

1. なぜ統計学を学ぶのか?: 社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学
2. 量的調査法の基本発想: データの縮減、量的調査と統計学の関係
3. データの縮約I: 度数分布、ヒストグラム
4. データの縮約II: 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位偏差
5. 分布を比較する: 標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図
6. 量的調査の方法: 調査票とデータセットの作成
7. 既存の統計資料の活用: 収集方法と読み方
8. データの種類: 数量データ、カテゴリカルデータ、順序カテゴリカルデータ
9. 2つの変数の関係を分析するI:二重クロス集計表、オッズ比、ファイ係数、クラマーのV
10. 2つの変数の関係を分析するII:散布図、相関係数、ピアソンの積率相関係数
11. 2つの変数の関係を分析するIII:単回帰分析
12. 2変数の関係を分析するIV: 変数間の関連の意味、相関関係と因果関係
13. 擬似相関と変数の統制I: 疑似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数
14. 擬似相関と変数の統制II: 因果推論、実験とリサーチデザイン
15. より高度な統計分析のために: 推測統計学、多変量解析

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に出す課題（45点＝15点×3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

谷合廣紀 『Pythonで理解する統計解析の基礎』（技術評論社）ISBN:978-4297100490

中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学』（ダイヤモンド社）ISBN:978-4478039472

[授業外学修（予習・復習）等]

・Google Colaboratoryを用いた演習を計画しています。Googleアカウントをお持ちでない方は、授業開始前に作成してください。

・ノートパソコンやタブレットなどの情報機器にある程度慣れていることを前提とします。

・授業時には、インターネットに接続できるご自身のPC（またはPCに準じる機器）をご持参ください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学53

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 堀　あきこ				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	メディアとジェンダー・セクシュアリティ										

[授業の概要・目的]

私たちを取り巻くメディアは、様々な形でジェンダーやセクシュアリティと深く関わっている。メディアは社会で共有されている価値観を映し出すだけでなく、その再生産と創造を行っているからだ。本講義では、インターネットやCM、マンガ、映画、ドラマといった身近なメディアをジェンダーやセクシュアリティの視点から見ることによって、それらが私たちにどのような影響を与えているのかを考える。さらに日本のポップカルチャーが国境を超えて世界中で受容され、そして、現地化された文化がふたたび日本で受容される現象についても議論し、国際的な作品・メディア・ファンのインタラクションについて検討する。

[到達目標]

①情報に接する際に必要となるメディアリテラシーを養い、②メディアによるジェンダーやセクシュアリティの構築性を理解し、③メディアから社会にある問題や課題を読み解いて、クリティカルな考察ができるようになる。

[授業計画と内容]

基本的には以下の授業計画に基づいて講義を進める。ただし講義の進みぐあいや、受講者の理解の状況に応じて変更する場合がある。
フィードバックは、毎回の授業開始時に前回の授業に対するコメントを紹介する形で行う。

第1回　性にかかわる概念①ジェンダーと性差
第2回　性にかかわる概念②セクシュアリティ
第3回　マンガ雑誌とジェンダー
第4回　マンガで描かれる性的マイノリティ
第5回　CMとジェンダー規範
第6回　メディアとジェンダー平等関連政策
第7回　女性表象と性的表現
第8回　ヘイトスピーチと感動ポルノ
第9回　ヘイズ・コード
第10回　映画と女性ジェンダー
第11回　性的マイノリティとTVドラマの変遷
第12回　実写ドラマ化
第13回　BLの越境とファン
第14回　メディアの変化からBLを考える
第15回　全体の振り返りとフィードバック

期末レポートの詳細については、初回の授業で告知する。

社会学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

・平常点30%（各回のコメントペーパー）
・レポート70%（レポートの評価基準は、授業内容を踏まえていることを基準として、到達目標の達成度に基づき評価する）
・100 点満点、60 点以上で合格。
・４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
国広陽子・他編 『メディアとジェンダー』（勁草書房, 2012）
清水晶子・他著 『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』（有斐閣, 2022）
堀あきこ・他編 『BLの教科書』（有斐閣, 2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に前回までの授業内容を復習しておくこと。
授業内で紹介する作品等は、各自で鑑賞することを推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

問い合わせたいことがある場合は、授業終了後に対応します。
メールでの連絡は、horry322@gmail.comまで。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 准教授　藤間　公太				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会調査の意義と作法（社会調査士科目B）										

[授業の概要・目的]

調査設計と実施方法についての知識を修得することは、必要な情報を適切に収集するとともに、調査対象者や調査協力者に迷惑をかけることを防ぐ上で、非常に重要である。また、先行研究を批判的に検討する際にも、調査の設計や実施についての正しい知識は有用となる。本講義では、担当講師がこれまでに関わった調査の実例も紹介しながら、量的調査、質的調査の設計と実施について講義する（社会調査士資格認定科目Bに相当）。
量的調査、質的調査を自分自身で適切に設計、実施できるようになることが、本講義の目的である。

[到達目標]

社会調査のデザイン、対象者の選定、標本抽出、調査票・質問文の作成、実査の方法、データの整理などについて、単に知識を暗記するだけではなく、自身の研究課題と結びつけて実践できるレベルで修得することを到達目標とする。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
第2回　社会調査の目的とプロセス：量的調査と質的調査
第3回　社会調査のデザイン①：問いの構成、仮説の生成、データベースの活用
第4回　社会調査のデザイン②：サンプリング・調査対象者の選定、スケジューリングとチーム構成
第5回　実習①：社会調査をデザインする
第6回　調査票の設計①：仮説と変数の関係、調査票の構成と質問文の配列
第7回　調査票の設計②：質問の種類、調査票作成の手続き、センシティブな設問
第8回　実習②：第5回で行った調査デザインにもとづき、調査票を作成する
第9回　実習③：第8回で作成した各班の調査票を相互に回答した後、クラス全体で意見交換を行う
第10回　調査票調査の実施：調査票配布・回収のプロセス、調査票調査の各種実施方法
第11回　調査データの整理と管理：エディティング、コーディング、データエントリー、クリーニング
第12回　実習④：第9回で相互に回答した調査票の内容をもとに、ExcelおよびStataを用いて、エディティング、コーディング、データエントリー、クリーニングを行う
第13回　質的調査の基礎：質的調査の種類と特徴
第14回　質的調査の方法：インタビュー（FGI含む）、参与観察、フィールドワーク
第15回　質的調査における調査者と調査対象者の関係

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

最終のレポート試験（70%）＋実習への貢献度も含めた平常点（30%）

到達目標について、文学研究科の成績評価の方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない
教科書は指定せず、担当講師が作成した授業資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法［第4版］』（法律文化社，2021年）ISBN:978-4-589-04141-8
篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳編 『社会調査の基礎――社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂，2010年）ISBN:978-4-335-55133-8
盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣，2004年）ISBN:978-4-641-18305-6

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外での復習が必要不可欠である。Excel等の利用も含め、講義した内容を実際に経験するための実習は適宜行うものの、自分一人で社会調査を設計、実施できるようになるためには、繰り返し復習することが大切である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学55

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 教授　　岡邊　健				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会調査における多変量解析の利用 （社会調査士科目E）										

[授業の概要・目的]

量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法の考え方とその利用方法について学習する。3元クロス表の分析（エラボレーション）、分散分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について、順次解説する。

[到達目標]

多変量解析の考え方と利用法を身につけ、それらを自身の研究課題と結びつけたうえで、統計ソフトウェアによる解析や結果の考察を行なうことができるようになる。

[授業計画と内容]

1. イントロダクション
2. 統計ソフトウェアによるデータハンドリングの基本
3. 推測統計の復習
4. 2元クロス表と関連の指標
5. 3元クロス表の分析（1）見せかけの関係
6. 3元クロス表の分析（2）媒介変数による解釈
7. 分散分析
8. 相関と単回帰分析
9. 重回帰分析（1）その基本
10. 重回帰分析（2）決定係数、偏回帰係数の検定
11. 重回帰分析（3）ダミー変数、多重共線性
12. ロジスティック回帰分析
13. 回帰分析の総合演習
14. 主成分分析
15. 復習とまとめ

[履修要件]

社会調査士科目のB科目とC科目（いずれも他大学で開講された科目を含む）を履修した者に限る。同A科目とD科目を履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の提出物（20%）＋定期試験（50%）＋最終レポート（30%）
これらにより、到達目標について、文学研究科の評価方針に従って評価する。

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の中では実際の調査データを用いた演習を行なうが、事後の復習がなければ習得は容易ではない。毎回の復習に、少なくとも1時間程度の時間は割いてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪経済大学情報社会学部　教授 中村　健二 摂南大学経営学部　准教授 塚田　義典 摂南大学経営学部　講師 梅原　喜政				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	データサイエンスのためのPythonプログラミングの基礎と応用										

[授業の概要・目的]

昨今、データサイエンスやAI開発に用いられる等、Pythonに注目が集まっています。Pythonは、高度な処理内容を簡素にプログラミングできるため、膨大なデータの正確な解析や、作業の自動化等、私達の様々な作業の効率を改善できます。そこで、本講義では、Excel操作の自動化や、Webマイニング、GUIアプリケーションの開発を題材としてプログラミング言語Pythonのプラグラミングスキルの習得を目指します。

[到達目標]

以下の事項を習得します。
ープログラミング言語Pythonの言語仕様の理解
ーExcelの操作の自動化技術
ーWebマイニング技術
ーGUIアプリケーション開発技術

[授業計画と内容]

１．環境構築、Pythonの基礎と演算子
　教科書範囲：p1-p34
２．繰り返し処理と条件分岐
　教科書範囲：p35-p52
３．シーケンスと文字列
　教科書範囲：p53-p83
４．関数
　教科書範囲：p84-p104
５．クラス
　教科書範囲：p105-p119
６．モジュールとライブラリ
　教科書範囲：p120-p132, p169-p180
７．ファイル入出力
　教科書範囲：p133-p146
８．例外処理
　教科書範囲：p147-p168
９．Webスクレイピング
　教科書範囲：p201-p213
１０．Webマイニング
　教科書範囲：p201-p213
１１．GUIアプリケーションの作り方
　教科書範囲：p231-p239
１２．データ自動解析アプリの開発

社会学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義) (2)

教科書範囲：p182-p200
１３．画像処理アプリの開発
教科書範囲：p214-p230
１４．アリ巡回シミュレーションアプリの開発
教科書範囲：p240-p253
１５．アリ巡回シミュレーションアプリの改良
教科書範囲：p240-p253

授業回数はフィードバックを含め全15回とします。
なお、本授業計画は課題の出来栄えや学生の理解度に応じて変更する場合があります。

※授業担当
１～５回：梅原喜政
６～１０回：中村健二
１１～１５回：塚田義典

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常試験(演習課題100%)で評価します。

[教科書]

田中成典他 『Python教科書』（I/O BOOKS）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容は実習を中心とするため、教科書の内容について、事前の予習を行うものとします。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学57

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　吉田　純				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	情報ネットワーク社会論										

[授業の概要・目的]

ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。

[到達目標]

現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。

[授業計画と内容]

以下の計画で15週の講義をおこなう。
1 オリエンテーション
2 情報ネットワーク社会への視点
3 日本社会の情報化　――情報化の現代史(1)
4 アメリカ社会の情報化　――情報化の現代史(2)
5 監視社会論　――社会システムの情報化(1)
6 リスク社会論　――社会システムの情報化(2)
7 経済システムの情報化　――社会システムの情報化(3)
8 ネット空間の展開　――生活世界の情報化(1)
9 再帰的近代化としての情報化　――生活世界の情報化(2)
10 生活世界のリアリティの再構築　――生活世界の情報化(3)
11 公共圏の情報化
12 親密圏の情報化
13 公共圏／親密圏の再編成
14 情報ネットワーク社会論の再構築
15. フィードバック (PandA上で実施)

[履修要件]

社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい

[成績評価の方法・観点]

素点(100点満点)で評価する。
・平常点(40点)+期末レポート(60点)
・平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による
　(詳細はオリエンテーションで説明)
・素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
・資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること (必ずしも印刷の必要はない)
・PandAサイトで復習用課題を実施する (詳細は初回授業で説明)

（その他（オフィスアワー等））

PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する (利用方法の詳細は初回の授業で説明)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学58

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都精華大学マンガ学部　准教授 伊藤　遊				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	マンガ研究ことはじめ　方法論を学ぶ										

[授業の概要・目的]

現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。
そうした認識に対応する形で、戦後、様々な立場からの「マンガ評論／研究」が試みられてきた。
本授業では、マンガを学術的な研究対象とするにあたっての、特に人文・社会学的な方法論を、具体的なマンガ研究論文の講読等を通じて紹介することを目的とする。
形式は、担当教員による講義、および受講者によるマンガ研究論文の講読。
マンガに関する卒業論文執筆や学会発表など、具体的な課題を抱えている場合は、それらのブラッシュアップの場をすることもできる。

[到達目標]

具体的なマンガ研究の論文を幅広く読むことで、ポピュラー文化を対象とする研究の文脈や方法論を理解する。

[授業計画と内容]

第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。
第2回～第3回：担当教員による講義。学術研究全体におけるマンガ研究の位置付けを解説した上で、マンガ研究の諸方法論を、具体的な研究書などを紹介することで概観する。
第4回：京都国際マンガミュージアムの見学
第5回～第15回：指定されたマンガ研究の論文の講読。担当者が論文の内容を紹介する形で発表、参加者全員でディスカッションする。

[履修要件]

特にないが、1度以上、京都国際マンガミュージアムの見学やイベント参加をしてもらう。

[成績評価の方法・観点]

平常点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

論文の講読においては、当該論文をあらかじめ熟読してくること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学59

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	関西大学社会学部　准教授 溝口　佑爾				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会調査のための統計学（社会調査士科目D）										

[授業の概要・目的]

本講義の目的は、社会調査によって得られたデータを分析するために必要な統計手法の原理と応用を修得することである。確率分布とモーメント母函数に関する理解に基づき、中心極限定理とその推測統計（区間推定と仮説検定）への応用について解説する。本講義は「社会調査士」資格取得のためのD科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）に対応している。

[到達目標]

・社会調査に必要な統計学の基礎を修得する。
・統計解析の基礎となる原理を理解する。

[授業計画と内容]

第1回 データの縮約と記述統計
　　変数と尺度
　　データの縮約

第2回-第8回 確率変数と確率分布
　　離散型の確率分布
　　確率変数
　　1変数の記述統計
　　2変数の記述統計
　　離散変数と連続変数
　　連続型の確率分布
　　正規分布と連続型の確率分布
　　モーメント母函数
　　大数の法則と中心極限定理
　　母集団と標本

第9回-第14回 推測統計
　　推測統計の発想
　　区間推定
　　仮説検定
　　回帰分析と相関係数
　　重回帰分析
　　多変量解析の意義

第15回 フィードバック

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

高校卒業レベルの数学の知識があることを前提とする。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（60%）と平常点（小テスト等：40%）による。

[教科書]

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056
馬場敬之 『統計学キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866152080

[参考書等]

（参考書）
石井俊全 『意味がわかる統計学』（ペレ出版）ISBN:978-4860643041
石井俊全 『意味がわかる多変量解析』（ペレ出版）ISBN:978-4860643980
篠原清夫・榎本環・大矢根淳・清水強志 『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応 』（弘文堂）ISBN:978-4335551338
馬場敬之 『微分積分キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151878

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書・参考書を十分に活用して予習・復習を行い理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　柴田　悠				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	人間行動論（Human Behavior）										

[授業の概要・目的]

この社会で「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？　身近な人の「幸せをサポートする」には、どうしたらいいのか？　そして、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」をつくるには、どうしたらいいのか？
「幸福感」は、人間の社会的行動の主要因の一つであるとともに、行動主体にとって重要な結果の一つでもある。そのため、上記の問いはすべて、人間の社会的行動についての重要な問いといえる。

そこで本講義では、上記の問いについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講者とともに上記の問いへの答えを考究する。
（なお、全学共通科目における同教員の前期「社会学I」・後期「社会学II」よりも「幸福」と「人間行動」に重点を置いた授業方針となるため、毎回の内容も視点が異なる。多角的な理解を深めるためには「社会学I」「社会学II」の受講も推奨する。）

[到達目標]

人間の社会的行動に関する問いについて、客観的に考察できるようになる。

[授業計画と内容]

毎回、主に担当教員（柴田）の研究内容を、その背景となる先行研究なども含めて、順を追って詳しく紹介していく。
その際、参考として以下の内容も必要に応じて紹介する（ただし授業回とテーマの対応は目安であり、受講者の状況などに応じて順番や内容を変更する可能性がある）。
また、一方的な講義にならないように、Googleスプレッドシートを使った意見交換なども適宜行う。

第1回　イントロダクション――「幸せな社会」をめぐる討論
第2回　近年の幸福研究――PDF「幸せに生きるために」
第3回　幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」（1）――PDF「0～2歳保育の効果」
第4回　幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」（2）――PDF「家庭育児と保育・幼児教育の効果」第1～7節
第5回　幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」（3）――PDF「家庭育児と保育・幼児教育の効果」第8節
第6回　幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」（4）――PDF「職業訓練の自殺予防効果」
第7回　どうしたら幸せに生きられるのか（1）遺伝子と行動――PDF「社会学の基礎と応用」第11章11.1～11.2
第8回　どうしたら幸せに生きられるのか（2）環境と社会保障――PDF「社会学の基礎と応用」第11章11.3～11.5
第9回　資本主義と社会保障の起源――PDF「資本主義と社会保障の起源」
第10回　社会保障の未来（1）――内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

第11回　社会保障の未来（2）――内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）
第12回　社会の未来（1）――PDF「〈不可知性〉の社会」244～260頁
第13回　社会の未来（2）――PDF「〈不可知性〉の社会」260～272頁
第14回　これからの社会をどう生きるか、どう変えるか
第15回　フィードバック（詳細は授業中に説明）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

「毎回の討論におけるパフォーマンス」（40点）と「毎回の小レポート」（60点）によって評価する。
評価方針としては、到達目標の達成度を、文学研究科の成績評価の方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
柴田悠 『子育て支援が日本を救う――政策効果の統計分析』（勁草書房）ISBN:4326654007（社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。）
柴田悠 『子育て支援と経済成長』（朝日新聞出版）ISBN:4022737069（朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。）

（関連ＵＲＬ）

https://sites.google.com/site/harukashibata/profile(教員紹介のページ)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んでおくこと。事前に文献を読んでいることを前提に講義を進める。文献が指定されていなければ、次回の内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べたうえで、「小レポート」をPandAで提出すること。不明点については、講義中かPandAフォーラムにて教員に質問すること。
毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分、復習120分を目安とする。

（その他（オフィスアワー等））

総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部と共通の授業。
履修人数を意見交換に適した人数に制限する可能性がある。
また毎回、Googleスプレッドシートを用いた意見交換を行うため、Googleスプレッドシートの閲覧・入力がしやすい端末（ノートPC・タブレット等）を毎回持参すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学61

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Qualitative Research and Community Fieldwork in Kyoto										

[授業の概要・目的]

This class will cover social research methods, mainly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.

Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through experience, observation, participation, interviews, action, questionnaires, and so forth, and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, and how people think and feel the way they do. Finally, researchers approach social reality through research and sometimes change reality through action. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue.

During the first month, a lecture is given on his research experiences. The purpose is to stimulate discussion by making his experience a reference point. Then we will read some literature on qualitative research covering conventional interview research, which is subjective-objective binary used by many researchers. This will be useful for students in conducting qualitative research. In addition, we will also deal with research on colonial/post-coloniality, low-end globalization, and papers on non-binary research such as action research and commitment. Though spotty for this class, fieldwork will also be conducted at social welfare facilities, public schools, and the historical buraku community.

[到達目標]

To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.

[授業計画と内容]

The organization of the course is as follows.
1. introduction
2. research experience (1) fieldwork in a rural community
3. research experience (2) interviewing migrants/stakeholders
4. research experience (3) approach to the vulnerable and reciprocity in research
5. research experience (4) advocacy
6. visiting migrants’ community
7. reading ethnography (1)
8. reading ethnography (2)
9. reading ethnography (3)
10. visiting community (buraku)
11. reading ethnography (4)

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

12. reading ethnography (5)
13. reading ethnography (6)
14. visiting community (education)
15. conclusion / feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%).

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, Imagining Sociology: An Introduction with Readings, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.
Marvasti, Amir, B., 2004, Qualitative Research in Sociology, London: Sage Publications.
Mirfakhraie, Amir, 2019, A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.
Scheper-Hughes, Nancy, 1995,“The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology,” Current Anthropology, 36(3): 409-440.
Scheper-Hughes, Nancy, 2009,“The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research,” Anthropology News: 13-14.
Francis, Nyamnjoh, B., 2015,“Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment,” Journal of Contemporary African Studies, 33 (1): 48- 63.

[授業外学修（予習・復習）等]

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
(@) indicates @.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　直野　章子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	記憶研究概説										

[授業の概要・目的]

この講義の目的は、記憶研究という新しい学際領域における主要な論点を、社会学的な関心に沿って検討することにある。記憶研究においては、記憶とは現在における過去の再構成であるという現在主義が主流であるが、他方で、過去の痕跡として記憶を捉える立場がある。社会学的記憶研究においては、アルバックスの集合的記憶論を参照しながら記憶の社会的枠組みを分析するものが多数を占めるが、他方で、集団の記憶の持続性に着目して、社会の結束や維持のメカニズムとして集合的記憶を論じる研究もある。この講義では、記憶研究において「記憶」がどのように概念化されてきたのかを概観した後に、集合的記憶論とその現代的展開を検討する。その上で、記憶研究における中心的な論点の一つである「トラウマ記憶」について、具体例を交えながら社会学的に考察し、記憶研究における二つの立場の接合可能性について検討する。

[到達目標]

記憶研究における二つの理論的立場を理解したうえで、現代社会における記憶をめぐる論争を社会学的に考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の計画に沿って講義を進める。ただし、講義や発表、ディスカッションの進み具合により、同一テーマの回数を変えることがある。

1：記憶研究という領域
2：記憶の概念史（1）
3：記憶の概念史（2）
4：集合的記憶（1）
5：集合的記憶（2）
6：集合的記憶（3）
7：集団の記憶の伝承
8：記憶の政治学
9：記憶の主体
10：トラウマの概念史（1）
11：トラウマの概念史（2）
12：トラウマ記憶と社会（1）
13：トラウマ記憶と社会（2）
14：記憶論の展開
15：フィードバック

社会学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

参照テキストは主に日本語のものを使うが、英語の文献も使用するため、英語論文の読解能力が必要となる。

[成績評価の方法・観点]

担当文献の報告（40点）、討論への積極的な参加（20点）、レポート（40点）により評価する。
レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する。
3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がないかぎり、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義形式での解説と指定文献の発表、ディスカッションで授業を進めていくため、指定された文献を読んでおくこと（予習）が必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業後に行う、もしくは、事前にアポイントメントを取ってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学63

科目ナンバリング	G-LET30 67334 LB45										
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　Stephane Heim				
配当学年	1回生以上	単位数	3	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語及び英語
題目	東アジア社会論										

[授業の概要・目的]

「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について３大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度はソウル）。ワークショップでは、３大学から参加した学生が、各自の関心にしたがって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。
国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。

[到達目標]

(１)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。
(２)台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。
(３)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回～第2回　イントロダクション
第3回～第8回　3大学の教員によるオンライン授業
第9回～第15回　各自の関心にしたがってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。

8月お盆明けの5日間（予定）　ワークショップとフィールドワーク
＊状況によってはオンライン開催に変更

[履修要件]

英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。

[成績評価の方法・観点]

授業へのコミットメント（40%）、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加（30%）、英語でのプレゼンテーション（30%）により評価する。詳細は授業で説明する。

社会学（特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

社会学（特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしたがって発表資料を作成する。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業で説明する。

COVID-19の感染状況によってはワークショップをオンライン開催に変更することがありうるが、前年度もこの方式で開催することができたので、心配しないでください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃 文学研究科　准教授　Stephane Heim				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop										

[授業の概要・目的]

世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て15年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。
今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているおり、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定（http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/）これまでの開催についてもアジア研究教育ユニットのHPを参照のこと。

The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see the detail in the call for papers as follows after April http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/

[到達目標]

テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。修士、博士レベルの参加者で構成されるため、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、成果は大きい。
Proceedingsは以下よりアクセス可能。
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982

It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through the mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen their understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context. You can access the workshop proceedings below.
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982

[授業計画と内容]

参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。
１．タイトルの作成
２．要旨の作成
３．応募書類の作成と応募
４．論文執筆（6000語程度）

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

５．校閲
６．発表原稿作成
７．発表演習
８．修正
９．報告
１０．大学教員からのコメントと返答
１１．全体のディスカッション
１２．研究者間交流
１３．論文のリライトと編集
１４．論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
１５．プロシーディングス掲載と確認
ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

[履修要件]

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。
Applicants need to submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to participate.

[成績評価の方法・観点]

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。Based on workshop presentation and preparation.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Please see calls for papers after April
募集要項に従って準備を進める。

（その他（オフィスアワー等））

ワークショップ参加希望者は
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
を通じてアポを取ること。(@)は@に。
Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
Or Kyoto University Asian Studies Unit

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学65

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　丸山　里美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法（専門社会調査士科目J）										

[授業の概要・目的]

本授業では、質的調査の特徴や、質的調査をめぐる現代的な課題について学ぶ。今日において質的調査を実施するには、現場で経験する政治的社会的不正義への姿勢、個人の人権やプライバシーの尊重、対象者への成果の還元、書くことの権力性への自省など、判断することを求められる倫理的態度がある。また、質的調査で得られたデータの解釈をめぐっても、異なる立場がありうる。これらの倫理的態度やデータ解釈をめぐる立場について、どのような議論がなされているかを、演習形式で検討する。それを通して、自ら質的調査を実施できるようになることが目的である。

[到達目標]

・質的調査の特徴を説明できるようになる
・質的調査を計画し、実施することができる
・質的調査において必要となる倫理的態度を理解する

[授業計画と内容]

第1回　導入、授業の進め方
第2～4回　質的調査の特徴
第5～7回　質的調査の倫理と現代的課題
第8～10回　質的調査の代表的成果
第11～13回　質的データの解釈
第14～15回　質的調査データの検討

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点50%＋期末レポート50%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は、質的調査を行ったことがある／行う予定があることを前提にする。議論には積極的に参加してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　太郎丸　博				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際（社会調査士科目G）										

[授業の概要・目的]

社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。

[到達目標]

調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。

[授業計画と内容]

前期
1オリエンテーション
2 調査の企画
3仮説構成
4 調査項目の設定
5質問文・調査票の作成
6 プリテストと調査票の修正
7 対象者・地域の選定
8サ ンプリング
9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）
10 エディティング
11 集計、分析
12 データの視覚化
13 仮説検証
14 報告書の作成
15フィードバック

後期
1オリエンテーション
2 データの入力・読み込み
3 単純集計表、ヒストグラムの作成
4 変数の操作の基礎
5変数の操作の応用
6 クロス集計表、帯グラフの基礎
7 クロス集計表、帯グラフの応用
8 散布図、箱ヒゲ図の作成
9 データセットの分割・結合
10 独立性の検定
11平均値の差の検定
12 多重クロス表分析

社会学（特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

社会学（特殊講義）(2)

13 回帰分析 の基礎
14 回帰分析 の応用
15フィードバック

[履修要件]

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法―2ステップで基礎から学ぶ』（法律文化社）ISBN:978-4589032577
盛山 和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

[授業外学修（予習・復習）等]

復習重視。宿題が頻繁に出る。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学67

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	農学研究科　教授　　秋津　元輝				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	農業・農村に関する社会学的・思想的研究文献の講読と講義										

[授業の概要・目的]

農業・農村に関する社会学的研究あるいは思想的研究を対象にして、国内外の基本文献および最新研究を取り上げ、演習形式で授業をおこなう。

[到達目標]

農業・農村の社会学的・思想的研究に関する世界的視野での動向を把握するとともに、その基礎的な概念や知識を身につける。

[授業計画と内容]

第１から４回　欧州における農業・農村の社会学的研究の検討
　Rurality、Geographical indication、Rural development、などのキーワードを念頭におきつつ文献を選出し、講読と講義をおこなう。

第５から８回　北米における農業・農村の社会学的研究の検討
　Agricultural science and technology、Urban agriculture、Food security、などのキーワードを念頭におきつつ文献を選出し、講読と講義をおこなう。

第９から１２回　日本における農業・農村の社会学的研究の検討
　アクション・リサーチやフォーカス・グループインタビュー、などの最近の調査手法に注目しながら、文献を選出し、講読と講義をおこなう。

第１３から１５回　総合討論および予備日

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告や討論への参加などの平常点で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業の進行に応じて適宜指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回文献を指定するので、事前に必ず予習してくること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学68

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	農学研究科　教授　　秋津　元輝				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	欧米における食農倫理研究の最前線										

[授業の概要・目的]

欧米における食農倫理に関する研究のうちから、最新の注目すべき業績を取り上げて、履修者と討議しながら、講義をおこなう。

[到達目標]

食と農の倫理的研究の世界的な研究内容と課題について理解を深める。

[授業計画と内容]

以下のトピックスの範囲内から欧米の最新研究をとりあげて演習形式で文献紹介をおこない、内容について解説、討議する。

第1回　食農システムの社会学・倫理学研究の概要
第2回から5回
・食農倫理学の体系
・Alternative Food Networks
第6回から9回
・食消費倫理をめぐる実践的研究
・食農技術開発をめぐる倫理問題
第10回から13回
・食料システムの社会学的分析
第14回・15回
・総合討論

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告や討論への参加などの平常点で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、課題となる文献を示すので、事前に必ず予習してくること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 准教授　竹内　里欧 教育学研究科 助教　藤村　達也				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	教育社会学の研究										

[授業の概要・目的]

本授業は、現代社会における「自己形成」をめぐる現象というテーマで行う。授業のはじめに、ビルドゥングスロマンについて解説した上で、現代社会における「自己形成」をめぐる現象について考察する。ビルドゥングスロマンとは、主人公が様々な経験や移動をとおして自己をつくりあげていくことをテーマとした物語をさす。近代社会において、「自己形成」を考える際に参照される典型的な物語として流通した。しかし、そうした物語は現在ゆらぎや変容をみせつつある。現代社会において、「自己形成」をめぐる物語はどのように存在しているのだろうか、また、どのような現象が生じているだろうか。授業は、講義、報告、討論を組み合わせて行う。映像資料も適宜用いる。

[到達目標]

現代社会における「自己形成」をめぐる現象というテーマの考察をとおし、教育社会学の研究の理解を深める。

[授業計画と内容]

1回　イントロダクション(授業の解説、報告担当者の順番決めなど)
2回　ビルドゥングスロマンの誕生・発展（講義）
3回　ビルドゥングスロマンの変容・解体（講義）
4回　「ビルドゥングスロマン」にかんする研究をよむ１(先行研究の説明）
5回　「ビルドゥングスロマン」にかんする研究をよむ２(先行研究の報告）
6回　「ビルドゥングスロマン」にかんする研究をよむ３(先行研究についての討論）
7回　「自己形成・成長」にかんする研究をよむ１(先行研究の説明）
8回　「自己形成・成長」にかんする研究をよむ２(先行研究の報告）
9回　「自己形成・成長」にかんする研究をよむ３(先行研究についての討論）
10回　映像資料の説明
11回　映像資料の鑑賞・討論
12回　現代社会の事例をもとにした考察（説明）
13回　現代社会の事例をもとにした考察（報告）
14回　現代社会の事例をもとにした考察（討論）
15回　授業のまとめと振り返り
（※　上記のような予定で行うが、出席者の関心にしたがって、適宜調整する。）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告と討論への貢献、レポートをもとに、総合的に評価する。
内訳は、おおよそ、報告と討論への貢献等（60%）＋レポート（40%）とする予定であるが、授業

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

の状況により適宜調整する。
到達目標について、教育学部（または教育学研究科）の評価方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告を担当する者は十分に準備をすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	東南アジアにおける家族と社会 Family and Society in Southeast Asia										

[授業の概要・目的]

[テーマ：東南アジアにおける家族と社会]東南アジアでも少子高齢化が進行中である一方、国内外の移動はますます顕著になっている。そうした中で生活の根幹をなす家族はどのように展開しているのか。そもそも家族はどのように理論化され記述され、また制度化されてきたのか、その変化はどのようにとらえられるのか。ここでは、人類学の理論や東南アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの過去から現在に至る展開とグローバル化というマクロな視点を研究の動向を追いながら学ぶ。また、現代的な問題として移動労働や高齢化とケアの問題、生殖技術や性的マイノリティなどとのかかわりを検討し、家族の領域、家族と社会のかかわりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。受講者の一哉構成により、内容や実施形態を変更する場合もある。

[Theme：Family and Society in Southeast Asia]In a large part of Southeast Asia, aging of the population has become a recognized issue. In the meantime, there is increasing mobility both domestic and international. How are these processes affecting the realm of the family which constitute the foundation of everyday life? How has the family been described and theorized to begin with, how has it been institutionalized, and how has it evolved in the face of current changes? This class will consider both anthropological theories, micro-level ethnographic perspectives especially in Southeast Asia on the one hand, as well as the institutional and ideological developments on the macro level from past to present, following relevant research trends. Moreover, it will address some contemporary issues such as migrant labor, aging and care in relation to the family, reproductive technology and sexual minority and discuss how the family realm is relevant to the study of the region. There will be lectures, presentations by class participants, as well as discussion. There may be some changes in the contents and method depending on the number and constitution of the class members.

[到達目標]

１）家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じる。
２）家族を論じることを通じて、東南アジア・東アジア社会について理解し、受講者各自の研究・調査において家族と社会を理解する基盤とする。

1) To better understand fundamental issues related to the family and society, and be able to discuss these from a comparative perspective.
2) To increase understanding of the characteristics and current trends in Southeast and East Asian societies in preparation for the participant's own research.

[授業計画と内容]

I　授業の説明と序論【1週】
II　家族をめぐる議論（人類学を中心に）【2-4週】
III　ジェンダーと家族【5-6週】
IV　東南アジアの家族とつながり【7-8週】
V　民族誌で読む家族と社会【9-10週】
VI　家族の制度と国家【11-12週】

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

VII　各論：移動と家族・高齢化とケア・LGBTと家族ほか【13-15週】

I　Introduction 【week 1】
II　Theoretical discussion of the family【weeks 2-4】
III　Gender and family【weeks 5-6】
IV　Family and relatedness in Southeast Asia【weeks 7-8】
V　Reading ethnographies on family and society【weeks 9-10】
VI　The family as institution and state 【weeks 11-12】
VII　Topics: Migration and family, intercultural marriage, care, LGBT family etc.【weeks 13-15】

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】
平常点（30%）、発表（30%）、期末レポート（40%）
【Method of evaluation】
Class participation(30%), class presentation(30%), final report(40%).

[教科書]

授業中に指示する
授業は、7区分するが、区分ごとにテキストを配布する。
Introduced during class.
The semester will be divided in seven clusters, and texts will be distributed before each cluster.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を（受講者数に応じて）分担で受け持つ。期末レポートでは、授業で扱ったテーマについて、受講者自身の研究関心との関連で論じてもらう。
Participants will be expected to be prepared to join in discussion based on the reading assignments.
Depending on the class size, they will be assigned a presentation of the major points of the reading and will be expected to lead the discussion, once or twice depending on the size of the class.
The final paper will ask the participants to review the themes in relation to their own research interests.

（その他（オフィスアワー等））

面談が必要な場合は時間設定は随時相談に応じる
Office hour upon consultation.

社会学(特殊講義)(3)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学71

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　吉田　純				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会情報学の諸問題										

[授業の概要・目的]

情報と社会との関係を軸として、現代社会の思想的・理論的・経験的あるいは実践的な諸問題について、内外の最新の研究文献に基づき、受講者各自の問題関心に沿った研究報告と批判的検討を行う。

[到達目標]

社会情報学およびその関連領域における研究のための基本的な視点と方法を習得する。

[授業計画と内容]

演習形式を取り、下記の計画で進める。

第1回　第2回以降の研究報告の日程を、受講者の希望に基づき調整する
第2～14回　各回につき1～2名の担当者の研究報告と、それに基づく質疑応答・討論をおこなう
第15回　フィードバック(PandA上で実施)

[履修要件]

学部レベルの社会学関係科目を履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（素点、100点満点）による
・配点：研究報告50点＋参加状況50点
・素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・自身の研究報告の前提として、事前に十分な時間を取り、先行研究等の関連文献の読み込みやデータの収集・整理を十分におこなっておくこと。
・研究報告完了後は、教員や他の受講者から受けたアドバイスを参考にし、修士論文、博士論文等の完成に向けて、文献やデータの収集・整理・読解をひきつづきおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

レジュメの整理・共有等のため、PandAサイトを活用する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学72

科目ナンバリング	G-LET30 6M361 LJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　柴田　悠				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	社会行動論演習										

[授業の概要・目的]

人間の社会行動（その集積である社会現象を含む）に関連する自由テーマの研究論文を作成するために、受講者各人が、自らのテーマに関する先行研究を整理・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。
さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。
またその際、担当教員は、社会行動論の専門家として、建設的なアドバイスを行う。

[到達目標]

人間の社会行動（社会現象を含む）を、客観的に分析・説明・議論できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。

第1回　ガイダンス（先行研究の扱い方、考察の仕方、発表の仕方）、受講者各人の発表日程の決定。
第2回　担当教員が見本発表を行う。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。
第3回～第14回　毎回1名が発表する。発表では、「人間の社会行動（社会現象を含む）に関連する自由な問い」、「その問いに最も近い先行研究（1つ以上）の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題」を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。

第15回　フィードバック（詳細は授業中に説明）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（100点満点）によって評価する。具体的には、発表の内容（50点）と、議論への参加度（50点）に基づいて評価する。

社会学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://sites.google.com/site/harukashibata/profile(教員紹介のページ)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。
予習・復習の時間配分は、予習120分（平均）、復習120分を目安とする。

（その他（オフィスアワー等））

本授業は人間・環境学研究科と共通のゼミである。
また、「感染による履修上の配慮」が必要となった場合には、急遽、Zoomを用いたハイブリッド形式に切り替え、対面参加者もZoom上で発言をしてもらう可能性があるため、Zoomにアクセスできる端末（ノートPC等）とイヤホン（できればイヤホンマイク）を毎回持参すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学73

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　Stephane Heim				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	質的調査に基づく研究										

[授業の概要・目的]

この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。

[到達目標]

質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。

[授業計画と内容]

(前期)
第1回　イントロダクション
　自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定
第2回～第6回　文献講読
　質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。
第7回～第14回　研究報告
　投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。
第15回　まとめ

（後期）
第1回　イントロダクション
　講読文献の決定、発表担当者の決定
第2回～第6回　文献講読
　質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。
第7回～第14回　研究報告
　投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告と討議への参加によって評価する

社会学(演習)(2)へ続く↓↓↓

社会学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示をする。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学74

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　丸山　里美				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	質的調査にもとづく研究										

[授業の概要・目的]

この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。質的調査にもとづいて書かれた国内外のトップジャーナルに掲載された論文を輪読し、上記の点について議論する。あわせて、受講者の修士論文・博士論文・投稿論文等について、中間報告を行い、議論する。

[到達目標]

・質的調査の方法と特徴について理解する
・質的調査にもとづく研究論文の記述の仕方を理解する

[授業計画と内容]

【前期】
第1回　導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定
第2～14回　質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。
第15回　まとめ

【後期】
第1回　導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定
第2～14回　質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での報告 60% ＋ 議論への参加 40%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

社会学(演習)(2)へ続く↓↓↓

社会学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各々のテーマに沿った研究報告を行うための準備をする。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学75

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　太郎丸　博				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際とデータ分析（専門社会調査士科目H・I）										

[授業の概要・目的]

社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。

[到達目標]

データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。

[授業計画と内容]

前期
1. 調査方法論、調査倫理
2. 調査企画と設計(1)
3. 調査企画と設計(2)
4. 仮説構成
5. 尺度構成法
6. サンプリングないし対象者・フィールドの選定(1)
7. サンプリングないし対象者・フィールドの選定(2)
8. 調査票の作成(1)
9. 調査票の作成(2)
10. 実査
11. 調査データの整理（コーディング、データクリーニングなど）(1)
12. 調査データの整理（コーディング、データクリーニングなど）(2)
13. グラフ作成、仮説の検証(1)
14. グラフ作成、仮説の検証(2)
15. 報告書の作成

後期
1. 回帰分析の復習
2. 非線形モデル（対数変換、二乗項の投入）
3. 交互作用効果の検討
4. モデルの選択（AIC, BIC, F検定）
5. モデルの診断（残差プロット、VIF）
6. 二項ロジスティック回帰分析(1)
7. 二項ロジスティック回帰分析(2)
8. 最尤推定法と尤度比検定(1)
9. 最尤推定法と尤度比検定(2)
10. 多項ロジスティック回帰分析(1)

社会学(演習)(2)へ続く↓↓↓

社会学(演習)(2)

11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

[履修要件]

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習重視。宿題がでる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学76

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	木2	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
題目	Welfare, development, Migration and Transculturality 開発・福祉・人の移動と文化越境										

[授業の概要・目的]

While Asian societies are experiencing rapid economic growth, the growth is largely determined by resource availability, and significantly restructures society. Thus, labor and welfare policies affect the balance between production and reproduction. Therefore, Asian countries known for their familialism have also become highly multipolar, and the role of the family in the welfare regime has also changed. Countries without "redundant" labor are actively mobilizing women in the labor market and introducing migrant workers, while those with are actively sending them out as part of their development policies for poverty reduction. In addition, a series of drastic changes in the demographic structure, accompanied by economic growth and declining fertility rates, has drastically changed the relationship between production and reproduction. Considering these trends in the Asian region, this class will focus on the economy, gender, production and reproduction, regional integration, cultural transculturality, and how the similarity and differences are constructed in the process of dynamism. The core of the class will be presentations by students, which will be followed by lively discussions.

経済成長が著しいアジア社会だが、成長は資源の賦存に大きく規定されるため、人々がどう労働市場に編入され、どう再生産労働を担うかは、労働政策や福祉政策による影響を受ける。そのため、家族主義と呼ばれたアジア諸国も大きく多極化し、福祉レジームにおける家族の役割も変化した。余剰労働力を抱えない国々は労働市場における女性の動員や移住労働者を積極的に導入し、余剰労働力を抱える国々は開発政策の一環として送り出しに躍起だ。さらに、経済成長と出生率の低下に伴う一連の人口構成の急激な変化によって、生産と再生産のかかわりも大きく変化している。本授業ではこうしたアジア地域の動向を踏まえながら、経済、ジェンダー、生産と再生産、地域統合、文化越境、差異の生成などについて取り上げる。また、授業の中核をなすのは学生によるプレゼンテーションであり、活発な議論を行う。

[到達目標]

To deepen understanding of the theoretical framework of the topic and improvement of participant's research project through presentation and discussion.

当該テーマに関する実態や理論的な枠組みの理解と各自の研究、プレゼンテーションの向上。

[授業計画と内容]

1. lecture on the related topic, four weeks
2. reading papers and discussions seven weeks
3. presentation of individual academic projects fifteen weeks
4. orientation, conclusion, feedback four weeks

(1)本授業のテーマに関する理論的枠組みや実践に関する講義（4回程度）
(2)基礎文献を各自が読んできて、指定された発表者が整理した論点に沿って、疑問点や異なる見方について話し合う。演習担当者が適宜解説を加える。（7回）

社会学(演習) (2)へ続く↓↓↓

社会学(演習) (2)

(3)参加者による研究発表を行う。（15回程度）
(4)オリエンテーション/総括/フィードバックなど（4回）

[履修要件]

（IMPORTANT）English will be the medium of instruction. Japanese is permitted, but only as an auxiliary.

[成績評価の方法・観点]

Participation, presentation and discussion. 参加、報告とディスカッション

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Presentation on the individual project at least twice is mandatory.

（その他（オフィスアワー等））

Please email for the appointment.
asato.wako.4c@kyoto-u.ac.jp @→@

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学77

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　田中　紀行				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	社会科学方法論										

[授業の概要・目的]

社会科学（特に社会学）の性格と研究方法に関わる基本問題（社会科学の目的、社会科学における概念や理論の役割、社会科学的認識と価値の関係、因果的説明の方法など）や主要な方法論上の対立点について、和文および英文の文献講読を通して検討する。そのため、社会科学の哲学に関する文献のほか、社会学者(ヴェーバー、ギデンズ、ブルデュー、ハーバーマス、吉田民人など)によって書かれた関連文献を順次取り上げる。

またこれとあわせて受講者による修士論文・博士論文等の中間報告も適宜行う。

[到達目標]

社会科学（特に社会学）の研究を進める上で留意すべき基本的な方法論上の問題についての基礎知識を獲得する。

[授業計画と内容]

前期
【第1回】イントロダクション
【第2回～第15回】社会科学方法論に関する文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。
後期
【第1回～第14回】社会科学方法論に関する文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。
【第15回】まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告レジュメと授業中の発言によって評価する。

社会学(演習)(2)へ続く↓↓↓

社会学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は毎回テキストの該当箇所を予習してくることを求められる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学78

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45										
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　岸　政彦				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	質的調査の研究										

[授業の概要・目的]

前期は文献の購読をおこなう。「質的調査」とは何か、質的調査を通じて論文を書くことはどのようにして可能か、質的調査はどのように捉えられ、どのように批判され、それに対してどのように応答されてきたのか。あるいはより実践的に、これまで質的調査を通じた論文はどのようにして書かれてきたのか、そしてこれからどのように書いていくことが可能なのか。主にこれらの点について、国内外のトップジャーナルに掲載された論文の分析と批評を通じて、参加者全員によるディスカッションをおこなう。

後期は、質的調査をおこなっている参加者がいれば、その方ご自身の研究について報告してもらう。調査計画の検討、データセッション、理論枠組みと分析概念の彫琢、そして実際の論文執筆まで、参加者全員で議論したい。

もちろん質的調査をしない方も履修可能である。

[到達目標]

質的調査とは何か、質的調査を研究するとはどのようなことかについて専門的な知識と実践的な方法について学ぶ。

[授業計画と内容]

1 導入――質的調査は何をするのか
2 質的調査の論文のレビューと分析、批判（1）
3 質的調査の論文のレビューと分析、批判（2）
4 質的調査の論文のレビューと分析、批判（3）
5 質的調査の論文のレビューと分析、批判（4）
6 質的調査の論文のレビューと分析、批判（5）
7 質的調査の論文のレビューと分析、批判（6）
8 質的調査の論文のレビューと分析、批判（7）
9 参加者による調査報告とディスカッション（1）
10 参加者による調査報告とディスカッション（2）
11 参加者による調査報告とディスカッション（3）
12 参加者による調査報告とディスカッション（4）
13 まとめ（1）――質的調査は何をしていくのか
14 まとめ（2）――何をすれば質的調査になるのか
15 まとめ（3）――質的調査の研究の研究
16 各自の調査計画の検討（1）
17 各自の調査計画の検討（2）
18 各自の調査計画の検討（3）
19 各自の調査計画の検討（4）
20 各自の調査計画の検討（5）

社会学(演習)(2)へ続く↓↓↓

社会学(演習)(2)

21 データセッション――情報整理と分析の実際（1）
22 データセッション――情報整理と分析の実際（2）
23 データセッション――情報整理と分析の実際（3）
24 データセッション――情報整理と分析の実際（4）
25 データセッション――情報整理と分析の実際（5）
26 理論枠組みの検討――先行研究批判と問題設定（1）
27 理論枠組みの検討――先行研究批判と問題設定（2）
28 理論枠組みの検討――先行研究批判と問題設定（3）
29 理論枠組みの検討――先行研究批判と問題設定（4）
30 1年のまとめ――データと理論の接合をめざして

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%、平常点50%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　埴淵　知哉				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	地理的なデータの収集と分析										

[授業の概要・目的]

地域で起こる多様な現象の特徴を把握するためには、さまざまな種類の調査法を利用する必要がある。同様に、収集したデータの分析にも多くの方法が存在する。本講義ではとくに量的データに注目し、統計的・系統的な地域調査法に関する基礎的な概念・理論を紹介するとともに、調査の困難化やデジタル化といった現代的課題についても検討する。具体的なトピックとしては、国勢調査や標本調査、インターネット調査、デジタルデータなどが含まれる。また、地理的なデータの分析方法についても可能な限り本授業の中で取り上げ、簡単な実習を含めて、地域を俯瞰的にみる方法を広く議論することを目的とする。

[到達目標]

・統計的・系統的なデータの収集・分析・表現に関する基礎的な知識とスキルを身につけることができる。
・様々な地域調査法の長所と短所を理解し、課題に対して適切な方法を選択できる能力を養う。

[授業計画と内容]

第1回：講義概要の説明
第2回：人文地理学におけるデータ収集の方法
第3回：国勢調査の利点と欠点
第4-6回：国勢調査データによる地域特性の把握（データ入手と分析）
第7回：標本調査の利点と欠点
第8回：インターネット調査の可能性と限界
第9回：公開データと二次分析
第10-12回：標本調査データによる意識・行動の把握（データ入手と分析）
第13回：系統的社会観察の可能性と限界
第14回：デジタルデータの可能性と限界
第15回：フィードバック

※履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。
※講義に加えて実際にデータを扱う実習を組み込む予定です。

[履修要件]

特になし

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（20点）、作業課題（30点）、レポート（50点）

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
埴淵知哉・村中亮夫編 『地域と統計: 〈調査困難時代〉のインターネット調査 』（ナカニシヤ出版、2018年）ISBN:4779513405

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。授業時間内で終わらなかった作業課題については授業時間外に完了させること。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　埴淵　知哉				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	地図を通してみる都市の諸相										

[授業の概要・目的]

本講義では、都市で生じるさまざまな現象や問題を観察・表現する方法として地図に注目し、地図を通して都市の諸相を理解することを試みる。取り上げる地図はデータマップ、メンタルマップ、デジタルマップなどである。データマップは都市における諸現象の地理的な広がりを可視化し、各地域の特徴や問題を浮き彫りにする。メンタルマップは頭の中にある空間的なイメージを表すもので、私たちが世界や都市をどうとらえているのかを知る手がかりを与えてくれる。またGISやデジタルデータの広がりによって新しいデジタルマップが生み出される一方で、場所の経験を重視して街の特徴を描くユニークな地図帳も登場している。本講義では、こういった様々な種類の地図について学ぶとともに、それによって都市を多面的にとらえることを目的とする。

[到達目標]

・様々な地図表現の特徴および長所・短所を説明できるようになる。
・現代都市の諸問題に対して地図を通してアプローチする能力を養う。

[授業計画と内容]

第1回：講義概要の説明
第2回：データマップで描く都市
第3回：都市の歩行環境
第4回：都市の食環境
第5回：都市の社会経済的状況
第6回：都市の社会環境
第7回：地図による推論
第8回：メンタルマップで描く都市
第9回：都市のイメージ
第10回：デジタル地図と方向感覚
第11回：地図の歴史とGIS
第12回：位置情報ビッグデータ
第13回：地域らしさを描く地図帳
第14回：五感と想像力で描く地図
第15回：フィードバック

※履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。
※講義に加えて実際に地図を制作する実習を組み込む予定です。

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（20点）、作業課題（30点）、レポート（50点）

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

マイケル・ボンド 『失われゆく我々の内なる地図―空間認知の隠れた役割 』（白揚社、2022年）ISBN:4826902379

若林芳樹 『地図の進化論―地理空間情報と人間の未来』（ 創元社、2018年）ISBN:4422400371

デービッド・バニス, ハンター・ショービー 『ポートランド地図帖―地域の「らしさ」の描きかた』（鹿島出版会、2018年）ISBN:4306046699

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学81

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　米家　泰作				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	紀伊山地の歴史地誌―山村と森林の歴史地理学―										

[授業の概要・目的]

本講義では、紀伊山地を事例として、歴史地理学的な視点から、山村地域の成り立ちについて議論する。自然環境、古代史、宗教史、政治史、集落形成、環境の利用と改変、焼畑、林業、人口動態に留意しながら、山地斜面に多くの集落が分布するこの地域の特色を理解していく。紀伊山地の人口は集落の形成とともに歴史的に漸増してきたが、1960年頃をピークとして急減していく。その背景には、環境利用の高度化によって、経済地理の拡大に対応できず、生業の柔軟性を低下させたという事情がある。なお本講義は、講師が準備中の著書の内容と連関している。

[到達目標]

現在様々な問題を抱える山村地域に関して，その歴史地理的背景を理解するとともに，人間と環境の関係史を広い視野から動態的に捉える能力を養う。

[授業計画と内容]

第１回　山村という視点
第２回　限界集落の時代
第３回　山地環境と集落立地
第４回　古代の伝承と痕跡
第５回　山岳宗教・修験道の成立
第６回　山の荘園と「山民」たち
第７回　山村地域が迎えた「近世」
第８回　多彩な生業の諸相
第９回　博物学者がみた近世山村
第10回　焼畑による巧みな森林利用
第11回　焼畑から林業へ
第12回　多様な生業の衰退
第13回　林業の経済地理のなかで
第14回　山村地域の行く末
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）と学期末のレポート（70%）により評価する。前者は授業数回ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

米家泰作 『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735
米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』（校倉書房）ISBN:9784751733508
白水智 『中近世山村の生業と社会』（吉川弘文館）ISBN:9784642029490
池谷和信・白水智 『山と森の環境史』（文一総合出版）ISBN:9784829911999

（関連ＵＲＬ）

http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ(講師の研究業績など（京都大学教育研究活動データベース）)
https://orcid.org/0000-0002-3391-5069(ORCID（Open Researcher and Contributor ID）)
https://www.facebook.com/komeie.taisaku(講師のフェイスブック)
https://researchmap.jp/tkomeie(リサーチマップ（科学技術振興機構）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて，関連する論文や文献に積極的に触れ，問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは，メールあるいはPandAのフォーラムで。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　米家　泰作				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本帝国と地理的知の諸問題										

[授業の概要・目的]

本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では，地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。

[到達目標]

地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。

[授業計画と内容]

１．地理的知の近代
　第１回　歴史地理学と言語論的転回
　第２回　オリエンタリズムと心象地理
　第３回　歴史地理学と帝国主義
２．朝鮮像の系譜
　第４回　近世日本の朝鮮像
　第５回　明治日本の朝鮮像と地誌編纂
３．植民地のマッピングと空間把握
　第６回　朝鮮の測量と地図化
　第７回　森林資源の地図化
４．学知と植民地
　第８回 学知の動員と焼畑の行方
　第９回 「知的征服」とその諸相
５．史蹟とその経験
　第10回　史蹟とコロニアルツーリズム
　第11回　史蹟の保存と経験
　第12回　征服神話と植民地
　第13回　帝国縁辺部へのツーリズム
６．帝国日本の心象地理
　第14回 「近代」概念の空間的含意
※第15回　フィードバック

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）と学期末のレポート（70%）により評価する。前者は授業に対するリアクションペーパー（３回程度）にもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Ｊ・モリッシーほか（上杉和央監訳）『近現代の空間を読み解く』（古今書院）ISBN:4772231848
Ｂ・グレアム，Ｃ・ナッシュ『モダニティの歴史地理』（古今書院）ISBN:4772214704
Ｄ・リヴィングストン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』（法政大学出版局）ISBN:4588371207
J. Agnew & D. N. Livingstone 『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』（SAGE Publications）ISBN:1412910811
米家泰作『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735

（関連ＵＲＬ）

http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ (講師の業績など（京都大学教育研究活動データベース）)
https://researchmap.jp/tkomeie(リサーチマップ（科学技術振興機構）)
https://orcid.org/0000-0002-3391-5069(ORCID（Open Researcher and Contributor ID）)
https://www.facebook.com/komeie.taisaku(講師のフェイスブック)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて，関連する論文や文献に積極的に触れ，問題関心を深めてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは，メールあるいはPandAのフォーラムで。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	現代中国の都市農村関係										

[授業の概要・目的]

都市と農村の関係について、中国を対象として考える。
現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成され、変容してきたかについて、主に地理学的な視角から具体的に検討してゆく。

[到達目標]

地理学における都市農村関係の研究法について理解する。
現代中国についての理解を深める。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進み具合に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。
第1回　都市人口：停滞と増加の背景
第2回　戸籍制度：東アジアの制度と現代中国の運用
第3回　制度改革：戸籍制度の改革
第4～6回　タンウェイ：社会主義建設と都市空間編成
第7～8回　住宅制度改革：都市空間の市場化
第9～10回　土地改革と集団化：農村変革の空間編成と文脈
第11回　非集団化：改革開放政策のさきがけ
第12回　郷鎮企業：農村開発のオルターナティブ
第13回　農民工：二元論を乗り越えるたくましさ
第14回　都市と農村：関係の地理学的再考
※フィードバックについては授業時に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

主に期末のレポートにより評価を行い（9割）、授業への参加度を加味する（1割）。授業への参加度は授業時のディスカッションやミニッツペーパーによって測る。

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の内容について、授業中に紹介した文献や論文を参考としながら、自らの興味関心に応じて発展的な学習を展開する。期末レポートにその成果を反映することになる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	防災研究所　准教授　松四　雄騎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論										

[授業の概要・目的]

本授業では，自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び，その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する．

山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では，豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し，下流域に被害を及ぼす．土砂災害による人的・物的被害は，高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により，それ以前と比べて格段に減少してきたが，近年，極端な豪雨の頻度増大により，再び増加しつつある．日本人はそもそも，居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し，その恩恵を受けてきたが，それと同時に斜面の崩壊や地すべり，土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた．地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は，傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と，それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに，失われつつある．居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには，空間的に飽和し，コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく，住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である．そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し，それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある．これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう．本授業では，斜面災害の地質・地形的背景（素因）や，降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が，なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて，野外実習と室内実験を通して，自ら地盤構成材料に触れ，その物性を定量的に把握し，データの解析を行うことで体験的に学ぶ．

[到達目標]

実習形式の授業を通して，温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し，山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法，およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び，斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う．

[授業計画と内容]

夏季の集中講義とし，野外および室内での実習形式での授業を行う．

授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り．
9月5日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地）
9月6日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス）
9月7日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）

1日目: 野外巡検
京都近郊の丘陵地を対象に，地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する．また，過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し，森林土壌の断面を作成して，土層試料の採集を行う．

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

2日目: 室内実験 + データ解析
採集した試料を用いて，宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う.

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ
宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに，得られたデータを用いて，雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い，斜面ハザード評価の方法論について討論する.

テーマとトピックス
(1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
(2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
(3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
(4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
(5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
(6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
(7) 地理的な防災・減災の方法論
(8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
(9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
(10) 地理情報システムと地形計測
(11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
(12) データの整理と統計処理の基礎
(13) 流域表層現象のモデル化と計算法
(14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
(15) 総括とフィードバック

授業を通じて，野外観察の方法，実験による定量データの取得方法，自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法，データの整理方法，製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する.
フィードバックについては，実習終了後に必要に応じて，教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか，レポートに講評を記入することも含む.

[履修要件]

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること.

[成績評価の方法・観点]

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

地理学(特殊講義)(3)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(3)

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する.

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので，ホームワークとしてこなすこと.

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため，動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上，虫よけや雨具，筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	金沢大学人間科学系　教授 中島　弘二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	人新世における「自然の地理学」の可能性										

[授業の概要・目的]

本講義では，近年の英語圏における「自然の地理学」の諸研究を参考にしながら、「人新世」が叫ばれる現代における自然と社会、人間と環境の関係を理解するための新たな視点を探究することを目的とする。

[到達目標]

2000年以降の英語圏の地理学における「自然の地理学」研究に対する理解を深めることを通じて、本質主義や技術主義ではない、自然と社会、人間と環境の関係についての社会批判的な視点を身につけると同時に、現代における環境保護や自然保護の問題について、主体的に考察できる力を身につける。

[授業計画と内容]

[第1回]イントロダクション
　人新世の時代における自然と社会の関係
[第2回]人新世と地理学的知
　人間中心主義（anthropocentrism）への批判としての地理学
[第3回]「自然の地理学」その１
　Neil Smithの「自然の生産」論からNoel Castree ＆ Bruce Braunの「社会的自然」へ
[第4回]「自然の地理学」その２
　Sarah Whatmoreのハイブリッド地理学からSteve Hinchliffe の「自然の地理学」へ
[第5回]都市の自然／自然の都市化、その１
　都市の政治生態学と都市的自然の生産
[第6回]都市の自然／自然の都市化、その２
　都市における物質代謝とサイボーグ都市の創造
[第7回]自然の商品化
　大気の市場－CO2の商品化－
[第8回]新自由主義と自然
　新自由主義的環境管理の台頭
[第9回]身体と自然、その１
　「人種」と「性」は自然か？
[第10回]身体と自然、その２
　死と生－臓器移植と生殖補助医療－
[第11回]動物地理学の展開
　Zoo Geographyから新・動物地理学へ
[第12回]動物の人間化／人間の動物化
　生をめぐる問題
[第13回]生政治の問題
　動物的な生を取り戻すために
[第14回]マルチスピーシーズな自然に向かって

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

　水俣病から学ぶこと
[第15回]おわりに
　人新世における「自然の地理学」の可能性

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の討論への積極的な参加とコメントの表明（20点）、レポート（80点）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
・授業中に適宜、討論を行ったりコメントを求めることがあります。その場合はできるだけ積極的に自分の意見を述べてください。
・レポートでは、独自の工夫が見られるものについては、高い点を与えます。

[教科書]

参考資料は授業中に適宜配布する予定である.

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

集中講義であるため各回の情報を各自で復習し，翌日の授業に応用することが望ましい.

（その他（オフィスアワー等））

・集中講義の開講日程によっては、前期の成績報告が遅れることがあります。あらかじめご了承ください。
・授業中にわからないことがありましたら、積極的な質問を期待します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学86

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学文学部　准教授 花岡　和聖				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	地理情報科学及びその具体的な手法について理解を深める。										

[授業の概要・目的]

近年、地理学では、国勢調査をはじめとする国の公的統計のミクロデータのほか、民間企業が提供するビッグデータなど多種多様なデータを用いた研究が行われている。本講義では、地域人口や位置情報に関する定量データの入手、処理、分析、可視化の理論と方法の両面を紹介する。またGISやその他のソフトウェアを用いた地理情報のデータ処理を通じて、講義内容の習熟を目指していく。
本講義で扱うトピックとして、国勢調査や土地利用、防災・防犯等のデータを用いた分布図の作成と空間分析、オープンなビッグデータを用いた地域分析・テキスト分析等を予定している。

[到達目標]

公的統計や地理情報の入手、集計、分析、可視化の方法を理解する。
地理情報システムを用いて、学生自身で地理情報の可視化、空間分析を実施できる。
地理情報科学に関する研究論文の内容を理解できる。

[授業計画と内容]

第01回：オリエンテーション、地理情報科学の現在
第02回：地域統計・地理情報データの入手と活用
第03回-第07回：地理情報の可視化と空間分析の基礎
第08回-第09回：研究図書・論文発表
第10回-第13回：ビッグデータ・テキスト情報の分析等
第14回：プロジェクト成果発表
第15回：地理情報科学の未来

☆使用予定ソフト：Excel、ArcGIS Pro、GeoDa、KH Coder等を予定
☆学内のデスクトップパソコンを使用してデータ処理を行います（ただし、講義内容・PC環境によっては個人のノートパソコンを使用します）。
☆受講生の関心やGISの利用経験に応じて講義内容を変更することがあります。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

☆ 平常点評価（50%）および2つ程度のレポート（50%）
平常点評価には講義内での発表や作業結果の提出を含みます。

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

『GIS実習オープン教材』（https://gis-oer.github.io/gitbook/book/）

矢野桂司 『GIS地理情報システム』（創元社，2021）ISBN:9784422400648

浅見泰司ほか 『地理情報科学ーGISスタンダードー』（古今書院,2015）ISBN:9784772252867

若林芳樹 『地図の進化論ー地理空間情報と人間の未来ー』（創元社,2018）ISBN:9784422400372

河端瑞貴 『経済・政策分析のためのGIS入門ーArcGIS Pro対応ー』（古今書院,2018）ISBN:9784772231992

村山祐司, 駒木伸比古 『地域分析ーデータ入手・解析・評価ー』（古今書院,2013）ISBN:9784772252720

Singleton, A.D. et al. 『Urban Analytics』（Sage,2018）ISBN:9781473958630

Brundsdon, C. and Singleton, A.D. eds 『Geocomputation: A Practical Primer』（Sage,2015）ISBN:9781446272923

[授業外学修（予習・復習）等]

☆GIS作業・プロジェクトの完成には授業時間外での学修が必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

☆質問・連絡等はいつでも受け付けます。メール等を気軽に送ってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	関西大学文学部　教授 土屋　純				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	流通・経済地理学										

[授業の概要・目的]

本講義では、コンビニ、ネット通販などの身近な産業である流通システムに着目し、流通・消費を分析することで見えてくる日本地理について解説する。さらに、人口移動、都市階層、国土空間の圧縮など、地理学的な用語を理解することで、地理学的な考察力を養成する。

[到達目標]

以下の3点が本授業の目標である。
・流通システムの仕組みについて理解する。
・人口移動、都市階層、国土空間の圧縮、地域格差、都市景観、といった地理学的な用語について理解する。
・流通の再編成が日本地理の態様に関わっていることを理解する。

[授業計画と内容]

第１回：　オリエンテーション：日本地理の特徴と流通・消費との関わり
第２回：　人口移動と地域市場①：3大都市圏の郊外市場はいかにして形成されたのか
第３回：　人口移動と地域市場②：東京の都心回帰がもたらす流通・消費の変化
第４回：　都市階層と買い物空間①：地方都市の百貨店や商店街はなぜ衰退したのか
第５回：　都市階層と買い物空間②：県外に影響を及ぼす最上位の地方都市
第６回：　都市階層と買い物空間③：「ショップ」で読み解く東京の都市構造
第７回：　国土空間の圧縮と流通革新①：モータリゼーションが変えた流通・消費
第８回：　国土空間の圧縮と流通革新②：コンビニの出店戦略から見る流通
第９回：　国土空間の圧縮と流通革新③：急成長するネット通販と情報化
第１０回：　高齢化社会と流通・消費①：買い物弱者はいかにして生まれたか
第１１回：　高齢化社会と流通・消費②：買い物弱者を支援する流通とは
第１２回：　地域性の消失と再構築①：スーパーとコンビニの品揃えはどのように決まるのか？
第１３回：　地域性の消失と再構築②；なぜロードサイドと商店街は同じ風景になるのか？
第１４回：　持続可能な社会と流通・消費①：災害時に流通はどうなるのか？
第１５回：　持続可能な社会と流通・消費②：人口減少時代に流通は維持できるのか？

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

①レポート試験の成績（40%）と、②コメントシート(60%)の充実度、で評価します。
②コメントシートは毎回の授業終了時に提出してもらいます。

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

土屋純 『地理学で読み解く流通と消費：コンビニはなぜ集中出店するのか』（ベレ出版，2022）
ISBN:978-4-86064-695-0
教科書に沿って授業を展開します。
授業の時には補足資料を配布しながら解説します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前に該当する章を読んでおいてください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メールやメッセージを気軽に送ってください。
tsuchiya@kansai-u.ac.jpまで

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	国立民族学博物館人類文明誌研究部 教授 池谷　和信				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	地理学特殊講義										

[授業の概要・目的]

私たち人類（ホモ・サピエンス）は、アフリカで誕生したあとに地球全体に拡散して地球上にエクメーネをつくりあげていったが、現代のエクメーネは都市域の拡大とともに縮小してきている。本講義では、古今東西の地理学者の研究活動や講義提供者自らによる世界中でのフィールドワークの経験を紹介することをとおして「地理学の見方や考え方」を習得することが目的である。具体的には、現生人類の拡散、農耕や家畜飼育の誕生、そして文明形成などに展開する「ホモ・サピエンスの歴史地理」を展望する一方で、世界の諸地域の現在の暮らしを知ることを通して未来における地球空間の持続可能な利用の在り方について考える。

[到達目標]

講義提供者の専門分野を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して現代の地球と人のかかわり方について考えることをめざす。

[授業計画と内容]

基本的には、以下の構成に従って講義を進める。ただし、社会情勢の影響を受けて各講義の順序を変えることがある。

第１回　地理学とは何だろうか：地球学としての地理学
第２回　地理学の方法論：フィールドワークのおもしろさとは
第３回　地理学の思想(1)：川喜田二郎と岩田慶治の人文地理学
第４回　地理学の思想(2)：梅棹忠夫と佐々木高明の民博での研究
第５回　地理学の思想(3)：千葉徳爾と池谷和信の狩猟研究
第６回　ホモ・サピエンスの歴史地理(1)　認知革命と地域：人類の移動と多様な環境への適応、現生人類のみがどうして生き残ったのか
第７回　ホモ・サピエンスの歴史地理(2)　農業革命と地域：農耕や家畜飼育は人類に何をもたらしたのか
第８回　ホモ・サピエンスの歴史地理(3)　産業革命と地域：世界システムの形成と世界と地域のかかわり方
第９回　世界の諸地域(1) アフリカの地誌：乾燥帯と人、ラクダ遊牧民とカラハリ砂漠の先住民
第10回　世界の諸地域(2)　ロシアの地誌：ポスト社会主義時代にツンドラで生きる
第11回　世界の諸地域(3)　アマゾンの地誌：地球最大規模の熱帯林での暮らしと都市
第12回　地球の未来(1)　人口と食と農：キンシャサ、ケープタウン、東京からの視点
第13回　地球の未来(2)　地球環境と人：温暖化、災害（東日本大震災）、感染症（COVID19）
第14回　地球の未来(3)　世界の諸文明の構図：自然・文化・文明の共生社会を探る
第15回　まとめと総括

＊フィードバック方法は授業中に説明します。

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（20点）、小レポート（30点）、試験（50点）により評価する。

[教科書]

使用しない
各回において資料を配布します。

[参考書等]

（参考書）
池谷和信 『人間にとってスイカとは何か』（臨川書店）（フィールドワークの方法やアフリカ地誌について参照）
川喜田二郎 『発想法：創造性開発のために』（中央公論新社）（野外科学としての地理学の方法論について参照）
池谷和信編 『食の文明論： ホモ・サピエンス史から探る』（農山漁村文化協会）（ホモ・サピエンスの歴史地理について参照）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示します。

（その他（オフィスアワー等））

授業後の声掛けには応じますのでご遠慮なくご質問してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学文学部　教授 山本　理佳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ヘリテージの地理学										

[授業の概要・目的]

本授業では、ヘリテージ（文化・自然遺産）をめぐる諸現象を地理学および近接の人文社会科学分野の学術的視座から検討する。ヘリテージ（文化・自然遺産）は、文化制度との関わりの中で生み出されるというだけではなく、様々な地域的・社会的背景のもとで生起・変化し、また今日の社会に大きな影響を与えうる動的な社会現象としてとらえるべきものである。本授業では、そうした変転する社会とともにある当該現象について、その歴史や現状を学び、それらをとらえる人文社会科学分野の理論的視座に触れる。そうした理解のもと、今日のヘリテージをめぐる現象について、受講生自身が批判的にとらえ、検討することを目指す。

[到達目標]

1. 人文社会科学におけるヘリテージ（文化遺産）に注目した学術的視座を理解できる。
2. 上記の1を用いて、現状のヘリテージをめぐる諸現象の批判的検討ができる。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回　ヘリテージをめぐる様々な議論・見方

【ヘリテージという現象の概要】
第3回　ヘリテージの生起(1)国民国家とヘリテージ制度
第4回　ヘリテージの生起(2)世界遺産の成立
第5回　ヘリテージの生起(3)後期近代におけるブーム
第6回　ヘリテージの変化(1)文化的景観
第7回　ヘリテージの変化(2)無形遺産
第7回　ヘリテージの変化(3)多様性
第8回　ヘリテージの変化(4)記憶と忘却

【ヘリテージ現象をめぐる理論／議論】
第9回　批判的ヘリテージ研究(1)イデオロギー、表象のポリティクス
第10回　批判的ヘリテージ研究(2)後期近代
第11回　批判的ヘリテージ研究(3)観光
第12回　対話的ヘリテージという視座(1)二元論的視点
第13回　対話的ヘリテージという視座(2)相対化と対話
第14回　ヘリテージと地理学的視座

第15回　まとめとフィードバック

※授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

各授業回のコメントシートあるいはディスカッションにもとづく平常点（40点）、期末レポート（60点）で評価する。

[教科書]

ロドニー・ハリソン（木村至聖ほか訳）『文化遺産といかに向き合うのか』（ミネルヴァ書房, 2023年）（2023年3月末出版予定）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前後に教科書を読んで予習・復習する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	岡山大学教育学域　教授 松多　信尚				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	災害の地理学										

[授業の概要・目的]

本授業では、前半は自然災害の原因となる自然現象とくに地震について変動地形学が果たした貢献と現状の課題について説明し、後半は自然災害について社会の変化に伴う自然災害の変化と防災減災および防災教育の変化について理解し、地理学の可能性と役割について議論する。

[到達目標]

災害、防災、減災について地理学的に理解し、自身の研究、学習、経験した内容と結びつけて議論できるようになる。

[授業計画と内容]

1.授業の概要と導入
2.変動地形学の基礎
3.変動地形学の今までの貢献
4.変動地形学の課題
5.変動地形学の可能性
6.変動地形学による地震予測　その１
7.変動地形学による地震予測　その２
8.変動地形学の今後の展望
9.自然災害とは何か
10.自然災害に結びつく自然現象と人の影響　その１
11.自然災害に結びつく自然現象と人の影響　その２
12.減災と防災
13.災害が社会に与える影響
14.防災教育と地理学の役割
15.まとめ

※授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業内でのデスカッションとレポート。3対7の比率

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に出された課題について考えてくること。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて随時受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授　小坂　康之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	自然生態論Ｉ										

[授業の概要・目的]

アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。

[到達目標]

・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。

・植生や植物（野生植物、雑草、農作物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。

・文献により重要な概念を学ぶとともに、野外実習や標本資料をつうじてモノを覚え、フィールドワークでの観察力を養う。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画で講義を進める。ただし講義の進み具合等により、順序や同一テーマの回数を変えることがある。
第１回　世界史を変えた50の植物
第２回　植物から地域をみる：植物の多様性
第３回　野外実習：東山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更）
第４回　野外実習：鴨川の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更）
第５回　野外実習：北山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更）
第６回　植物から地域をみる：栽培植物と農耕の起源
第７回　植物から地域をみる：大航海時代とプラントハンター
第８回　農業から地域をみる：水田稲作
第９回　農業から地域をみる：焼畑耕作
第１０回　農業から地域をみる：里山の環境利用
第１１回　植物から地域をみる：森林の植生
第１２回　農業から地域をみる：日本の林業
第１３回　植物から地域をみる：木材の利用
第１４回　植物から地域をみる：植生と植物利用
第１５回　期末レポート・フィードバック

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。
平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
アンナ・レウィントン『暮らしを支える植物の事典―衣食住・医薬からバイオまで』（八坂書房, 2007年）ISBN:978-4-89694-885-1（そのほか、毎回の講義で紹介する。）

[授業外学修（予習・復習）等]

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

（その他（オフィスアワー等））

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	人間と自然の関係性の理解										

[授業の概要・目的]

この授業では、地理学と強く関連するテーマである人間と自然との関係に着目し、人類の日常生活と生活世界、環境や資源の認識と利用、自然への働きかけ、労働と報酬の分配、科学知と在来知識という主要トピックを取り上げる。

とくに人類の生産と消費、社会の変容、人間と環境との関係、環境や資源の利用にフォーカスをあて、受講生のみなさんがテーマにそった日本語／英語の文献を読んで、内容を紹介する演習形式と授業形式を組み合わせて、授業を進める。授業担当者よりその内容に関する追加の解説と話題提供をおこない、受講生と議論する予定にしている。

[到達目標]

地理学と生態人類学、その周辺分野に関連する文献の読解を通じて知識の習得、人類と資源、環境との関わり、社会の仕組みに関する基本的な見方、社会を分析する見方を身につける。

[授業計画と内容]

授業計画と内容
１．概要説明
２．ポリティカル・エコロジーの視点
３. 核としての周辺（1）日本の例
４．核としての周辺（2）アフリカ、東南アジアの例
５. 自然社会の暮らし(1)：狩猟・採集社会
６．自然社会の暮らし(2)：牧畜社会
７. 自然社会の暮らし(3)：農耕社会
８. 自給社会と貧困の問題
９．貨幣経済の流入と社会変容
10. アフリカにおける呪いの問題：平準化
11. 富の分配と経済格差、平等性
12. グレート・アクセレーション（1）：物質・エネルギー
13. グレート・アクセレーション（2）：大量生産・大量消費社会
14. 「持続的な開発」とは？
15. まとめ：人類の行く末
（発表者の選ぶトピックによって、授業内容の順番は変更になる予定。）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

発表・レポート（60点）、平常点（40点）。
出席や発表、議論への参加などで判断する。発表回数は各人１回を予定していますが、受講生が少

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

ない場合には２から３回まわってくることもある。毎回１度は発言をしていただきます。授業の形式は、受講者の人数によって変更することもあります。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

松井 健 , 野林 厚志 , 名和 克郎 (編) 『グローバリゼーションと「生きる世界」―生業からみた人類学的現在』（昭和堂）

羽渕 一代 , 内藤 直樹 , 岩佐 光広 (編) 『メディアのフィールドワーク―アフリカとケータイの未来』（北樹出版）

山本紀夫（編） 『熱帯高地の世界: 「高地文明」の発見に向けて』（ナカニシヤ出版）

Steffen, W., Sanderson, A., Tyson, P., J#228ger, J., Matson, P., Moore III, B., Oldfield, F., Richardson, K., Schellnhuber, H. J., Turner II, B. L. and Wasson, R. J. 『Global Change and the Earth System: A Planet Under Pressure.』（ Springer-Verlag）

１、２回目の授業どきに文献リストを提示し、文献紹介の担当と順番を決める。参考書については吉田南、もしくは本館の図書館、東南アジア研究所、アフリカ地域研究資料センターの図書室に所蔵されているものを使用します。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前にテキストを読んで関連文献にあたったり、用語の下調べをすること。用語を記憶しようとするよりも、社会の事象や動きを把握し、そのメカニズムを解明しようとするプロセス、そしてそのプロセスを論理的に表現しようとする研究に従事する楽しさ、学問のおもろさ、人に説明する楽しさが分かるようになることを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

川端通り沿いの稲盛記念館3階314室に研究室があります。空ぶりをしないよう、事前にメールすること。授業後にお話をするのも歓迎です。

oyama.shuichi.3r@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　杉江　あい				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	地誌の歴史と現代的意義										

[授業の概要・目的]

この授業は地誌の歴史的背景と学術的展開を学び、地誌の現代的意義と課題について検討する。地誌は歴史的に権力や軍事行動と密接に結びついてきたことや、記述者の位置性をめぐって、批判にさらされてきた。現在、学術的に地誌は衰退したと言われる一方で、地理教育においては依然として地誌学習が重要な役割を持っている。この授業では、こうした地誌の歴史的背景と学術的、社会的な位置づけを踏まえた上で、地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割の可能性と課題を、出席者1人1人が主体的に考えることができるようになることをねらいとする。

[到達目標]

・地誌の歴史と学術的な展開、社会的な位置づけについて理解する。
・地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割について考察できる。

[授業計画と内容]

第1回目　オリエンテーション
第2回目　古代・中世の地誌
第3回目　植民地支配と地誌
第4回目　近代における地理学の成立と地誌
第5回目　地政学と兵要地誌
第6回目　戦後における地誌の衰退
第7回目　英語圏の「新しい地誌」
第8回目　非英語圏の「新しい地誌」
第9回目　地理的表象の危機と地誌
第10回目　映像人類学からの示唆
第11回目　地理教育と地誌（1）地誌学習の変遷
第12回目　地理教育と地誌（2）教科書記述の問題
第13回目　世界認識ツールとしての地誌
第14回目　地誌の学問的・社会的位置づけ
第15回目　まとめとフィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート（4点×13回＝52点）、期末レポート（48点）で評価する。
・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用

地理学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業でレジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
熊谷圭知・西川大二郎編 『第三世界を描く地誌―ローカルからグローバルへ』（古今書院、2000）ISBN:978-4772250498
熊谷圭知 『パプアニューギニアの「場所」の物語―動態地誌とフィールドワーク』（九州大学出版会、2019）ISBN:978-4798502489
クリフォード、J. ・マーカス、J. 編 『文化を書く』（1996、紀伊國屋書店）ISBN:978-4314005869
森川　洋 『人文地理学の発展―英語圏とドイツ語圏との比較研究』（2004、古今書院）ISBN:978-4772240536

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は授業（金曜4限）後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜15半～17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　杉江　あい				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	バングラデシュの動態地誌：国家・開発・経済										

[授業の概要・目的]

この授業では、地域間および特定の要素間の関係に着目したバングラデシュの動態地誌を通じて、地誌を含む地理的知の政治的・社会的影響と、地誌を通じた地域理解、世界認識の可能性と課題について検討することを目的とする。
本授業は三部構成になっており、それぞれ下記のテーマを扱う。
第一部　英国植民地統治に伴って実施された地誌編纂が植民地期／独立後の国家および社会に及ぼした影響
第二部　冷戦体制下において「低開発」の「第三世界」とされたバングラデシュにおいて行われた開発
第三部　安価な労働力の供給地として近年、注目を浴びるようになったバングラデシュと日本との関わり

[到達目標]

・バングラデシュの国家の成り立ちや開発、経済成長の動向と、これらにまつわる諸問題について理解する。
・地誌による地域理解、世界認識が孕む問題と可能性について考察することができる。

[授業計画と内容]

第1回目　オリエンテーション
第一部　科学の「実験場」としてのインド
第2回目　分割統治と地誌
第3回目　国民国家と地理的知
第4回目　ポストコロニアルの苦境（1）宗教間対立
第5回目　ポストコロニアルの苦境（2）難民
第6回目　ポストコロニアルの苦境（3）カースト差別
第二部　援助の「実験場」としてのバングラデシュ
第7回目　冷戦の地政学と国際開発
第8回目　開発のオーナーシップ（1）農村開発
第9回目　開発のオーナーシップ（2）人口抑制
第10回目　開発のオーナーシップ（3）NGOの第2の行政化
第11回目　開発のオーナーシップ（4）マイクロファイナンス
第三部　ネクスト11としてのバングラデシュ
第12回目　（新）国際分業におけるバングラデシュの位置づけ
第13回目　ファストファッション産業から見るバングラデシュと日本
第14回目　日本に暮らすバングラデシュ人
第15回目　フィードバック

地理学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

前期に地理学特殊講義「地誌の歴史と現代的意義」を履修することが望ましいが、履修していなくても受講可能。ただし、「地誌の歴史と現代的意義」を履修しなかった人は、第1回目のオリエンテーションにできる限り出席してください。

[成績評価の方法・観点]

第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート（4点×13回＝52点）、期末レポート（48点）で評価する。
・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業でレジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
長田華子 『バングラデシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』（お茶の水書房、2014）ISBN:978-4275010582
向井史郎 『バングラデシュの発展と地域開発』（明石書店、2002）ISBN:978-4750316666
Breckenridge, C. A. and van der Veer, P. 『Orientalism and the Postcolonial Predicament: Perspectives on South Asia』（University of Pennsylvania Press、1993）ISBN:978-0812214369

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は授業（金曜4限）後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜15半～17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 7M372 SJ39											
授業科目名 <英訳>	地理学(演習) Geography (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　米家　泰作 文学研究科　准教授　埴淵　知哉 文学研究科　講師　杉江　あい					
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水5	授業形態	演習	使用言語	日本語	
題目	大学院演習											

[授業の概要・目的]

院生それぞれが遂行する研究のプロセス（テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆に至る一連の段階）に沿って報告を行い、互いに議論を重ねることにより、研究を深めることを目指す。

[到達目標]

到達目標は以下の３点である：(1)参加する院生の関心に即したテーマについて、それぞれが研究動向を把握し、内外の先行研究を批判的に読み込み、新しい研究課題を的確にとらえるむこと、(2)オリジナリティ豊かな調査研究・分析手法の力量を高めること、(3)明快で論理的な論文の論理構成や図表作成の能力を高め、研究発表や論文執筆を行う力量を身に付けること。

[授業計画と内容]

年度初めに１年間の院生の発表スケジュールを決め、それに従って、院生はレジュメを用意して各自の専門のテーマに関する発表を行う。その後、発表に関する討議を行う。なお、院生は１年間に少なくとも２回の発表をする必要がある。各発表では、半年間の研究成果を報告する。それぞれの発表につき院生１名が書記を務め、討議の内容を記録し、演習終了後に口頭で要約し、さらに１週間以内にそれを印刷して、演習出席者全員に配布する。発表者は討議で指摘されたコメントを踏まえて研究を深めたり修正を加えたりすることによって、修士課程の院生の場合は修士論文の作成に、博士課程の院生の場合は学会誌投稿論文のとりまとめに反映させることが求められる。
第1回　イントロダクション
第2～29回　受講生による研究発表と討議
第30回　全体のまとめとフィードバック

[履修要件]

本演習は地理学専修で修了する院生の必修単位であり、地理学専修の院生の受講を優先する。

[成績評価の方法・観点]

演習への参加と発表に基づく平常点で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
なし

地理学(演習)(2)へ続く↓↓↓

地理学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は、演習発表のレジュメを準備すること。担当者は、毎回の発表と質疑の記録をとり、参加者に配布すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは各教員ごとに時間を登録しているので、利用してください。また、質問や問い合わせたいことがあれば、随時、メールで連絡してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

行動文化学96

科目ナンバリング	G-LET31 7M373 SJ39										
授業科目名 <英訳>	地理学（演習） Geography (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　小島　泰雄				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	農村開発と内発的発展論										

[授業の概要・目的]

農村開発は途上国の貧困を解消するために実施されてきた（チェンバース『第三世界の農村開発』1995）ものであるが、問題地域化する先進国農村に対しても様々な取り組みが行われている。内発的発展をめぐる議論は、外来型発展との対比の中で展開されてきた。地理学・経済学・社会学など領域横断的な研究者が著した『内発的農村発展論―理論と実践』を手がかりに、農村開発をめぐる議論に内包される領域・場所・スケール・ネットワークといった空間性に着目して、内発的発展論の現在を理解するとともに、その可能性について討論を行う。

[到達目標]

人文地理学における研究フロンティアを理解する。
内発的発展の深い理解に立った研究を行うことができるようになる。

[授業計画と内容]

次のテーマについてそれぞれ3回程度をあてて、テキストとする『内発的農村発展論』の関連する章の記載をもとに議論を行う。授業はフィードバックを含めて全15回。

1. 農村社会と内発的発展
2. 農村経済と内発的発展
3. 農村政治と内発的発展
4. 農村文化と内発的発展
5. 内発的発展と実践

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

担当課題の報告（７割）、他報告の討論記録およびディスカッションへの参加度（３割）を総合的に評価する。

[教科書]

小田切徳美・橋口卓也編 『内発的農村発展論―理論と実践』（ 農林統計協会、2018）ISBN: 9784897323794

地理学（演習）(2)へ続く↓↓↓

地理学（演習） (2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、課題が提示されるので、テキストの関連部分を読んで、演習に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。